



Game: Eclipse Phase 戯曲《前夜：地球篇》

2017.03 吉日 蔵原大（協力：齋藤路恵）



(Attention): The above **Creative Commons BY-NC-SA license** (see <http://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/3.0/>) respects original creators' copyrights of all materials quoted in this drama, under copyright laws in Japan, which is one of stories built upon a shared universe named Role Playing Game "Eclipse Phase" (Posthuman Studios LLC., see <http://eclipsephase.com/>) referring to a Sci-Fi TV drama "Babylon 5" (<http://babylon5.warnerbros.com/>).

(The Eclipse Phase logo is quoted from <http://eclipsephase.com/sites/all/themes/zen/eclipse2/logo.png>)

【入場前のお断り】

本戯曲は「戦略」「政治」に職業的ご関心のある成人向けの言葉あそびでして、また RPG Eclipse Phase (Posthuman Studios LLC. <http://eclipsephase.com/>) の世界観を活用したシェアード・ワールド的な SF 政治コメディです。

作中の「註」は読解のヒントですが、無視してくださって構いません。

註

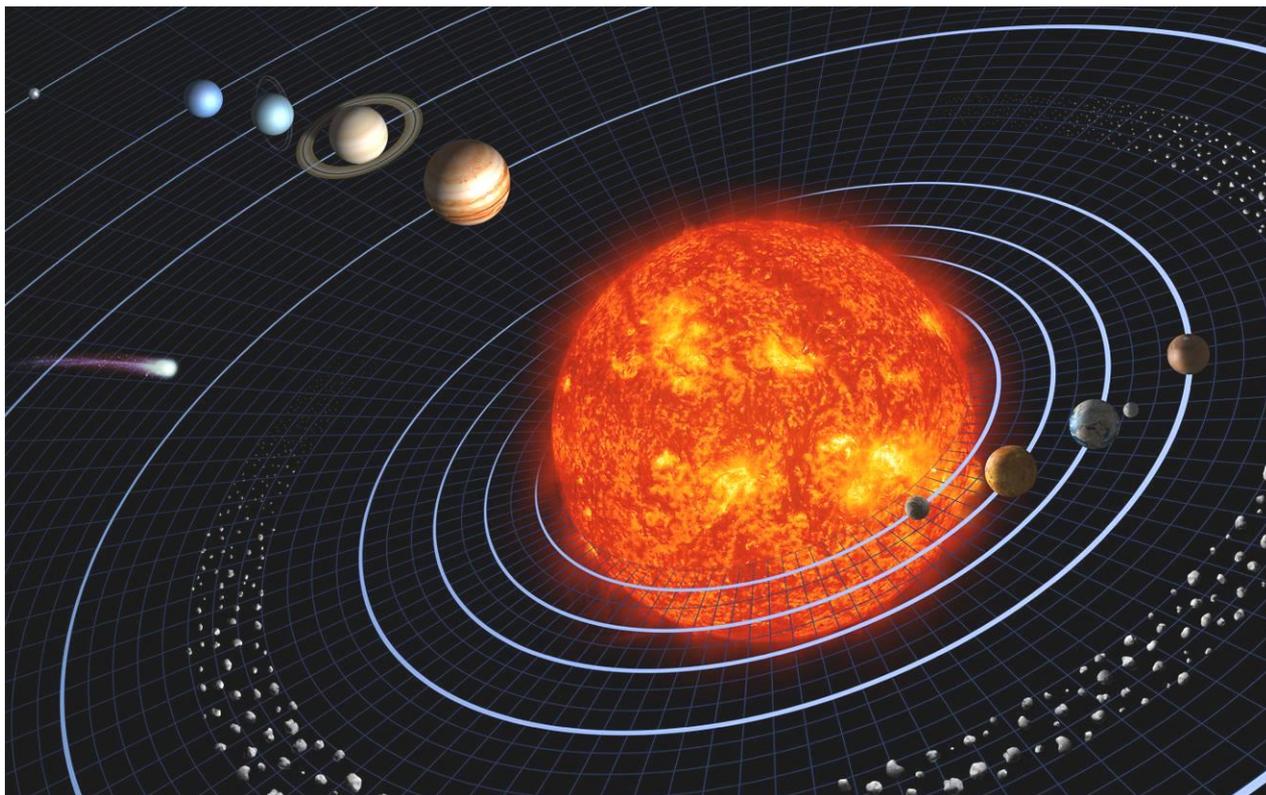
歴史上の重大な変革は、個々の天啓や行動から生まれ出るものだ。現在の私たちの社会では、私たちはそうした情報を忘れるようにプログラミングされている。役所に逆らってもしょうがないと、ひとりの力では何もできないと、お前は無力であると教え込まれている。それは嘘なんだ。番組を作るにあたって、私の仕事は社会の常識が嘘だと皆さんにわかってもらうように努力することだった。選択肢が存在することを理解し、あなた自身には様々な可能性があり、自分自身が選択しないと他人に将来を決定されてしまうことをわかってもらいたい。

— J・マイケル・ストラジンスキー (J. Michael Straczynski) のコメント
(デヴィッド・バソム著、岩井田雅行、緒方桂子共訳『クリエイティング バビロン5』学習研究社、2002 年より)

http://www.amazon.co.jp/dp/4054014496/ref=sr_1_1?s=books&ie=UTF8&qid=1327900677&sr=1-1

【戯曲場割】

- 第一幕 月より地球へ (第一場／第二場／第三場／第四場)
- 第二幕 軌道上 (第一場／第二場／第三場)
- 第三幕 台北空港 (第一場／第二場／第三場)
- 第四幕 再び軌道上 (第一場／第二場／第三場)
- 第五幕 地球から月へ (第一場／第二場／第三場／第四場)
- その後と AF10 年、タイタン都市アーハスのとある喫茶店、そして火星
- 参考文献リスト



(This image is quoted from "Solar System Exploration: Multimedia: Gallery: Our Solar System," NASA - Home. (http://solarsystem.nasa.gov/multimedia/gallery/SSE_Grid_br.jpg))

《 戯曲「前夜：地球篇」の舞台は太陽系です 》

本作品「前夜」は、むかしの「地球人」という人びとの振る舞いに
関する喜劇です。くわしくは次のページの「ほんとうのれきし」を。

(引用元は、木星文化省検閲済みのJPTA推薦による児童本です。善良なる臣民の皆さま、ご安心ください)

なお太陽系を構成する惑星（天体）は、太陽に近い順から言うと、以下のとおり。

- 水星
- 金星
- 地球と月（日本やアメリカ合衆国という国々はここにいます）
- 火星
- 小惑星帯（地球や月よりはるかに小さな天体が集まった帯状の領域）
- 木星
- 土星（その周りを回るのが衛星タイタン）
- 天王星
- 海王星



註

ナチスの理論は現実に、「真実」といったようなものの存在を厳として否定する。たとえば「科学一般」といったようなものはありえない。「ドイツ科学」「ユダヤ科学」といった特殊な科学があるきりだ。こうした発想法の目的とするところは悪夢の世界であり、そこでは指導者とか支配集団が未来ばかりでなく過去までも管理するのである。もし指導者がしかじかの事件は「絶対に起こっていない」とのたまわれれば——そう、絶対に起こっていないことになるのだ。2たす2は5であるとのたまわれれば——そう、2たす2は絶対に5となるのである。

何百年間も、最終章ではきまって「正義」が勝つような文学に育まれてきただけに、われわれはなかば本能的に、悪はいつもしまいには自滅するものだと思いこんでいる。たとえば平和主義など、主としてこのような信念に基づいたものである。悪に抵抗するな、そのうちに悪はみずから滅びるといふわけである。しかしながら、どうしてそうなるのか。かならずそうなるという証拠が一体どこにあるのか。そして近代的産業国家のうち、外部からの武力制圧によらないで崩壊したというどんな例があるのか。

たとえば奴隷制度の復活を考えてみよう。二十年前、ヨーロッパに奴隷制度がもどってくると想像しえた者がいたろうか。そう、奴隷制度はわれわれの目と鼻の先で復活したのである。

— ジョージ=オーウェル「スペイン戦争を回顧して」『カタロニア讃歌』（原書 1943）
http://www.amazon.co.jp/dp/4480087273/ref=sr_1_2?s=books&ie=UTF8&qid=1327900773&sr=1-2

【 始めに—ほんとうのれきしを知ろうよ！ 】（木星共和国文化省検閲済）



This banner is quoted from TB RMIInsanity's comment, Fri, 2010-06-25 12:45, in Eclipse Phase Home > Forums > EP Homebrew > Userbars (<http://www.eclipsephase.com/userbars>)

……そうして二〇世紀とよばれたじだい、人類はようやく星のせかいにとびだします。すうひやく年かけて太陽系のあちこちがたんけんされ、いちばんりっぱな星、この木星（Jupiter）に、いちばんはたらき者のわたしたちがくらすようになったのです（パンザーイ！）。

でも地球にのこったなまけ者のなかに、はたらくことが大きらいで、テクノロジーがだいすきなウジむしのヲタがいました。ブクブクふとったそいつらは、ロボットぐんたいをつくって、ほしいものをよこどりします。すると、なまけもののヲタはもっとロボットをつくって、もっともっとよこどりしたいなあ、とおもうのでした（ハイテクはアクマだ！）。

そうしてやってきたのが、あのおそろしいさつじんマシン、タイタンズ（Titans）。こうして人類とキカイとのだいせんそうがはじまったのでした。

— 『むかし地球はあおかったのに』（ホーリーウッド出版社、木星共和国、AF07年）

〔引用本は、タイタン自治大学（Titanian Autonomous University）中央ライブラリー所蔵／一般公開〕



【主要登場人物】

- ダン＝アリスター (タイタン海軍大佐) 外見は 20 歳のスレンダーな女性。
- イム＝スギル (タイタン海軍中佐) 外見は 50 歳の温厚そうなアジア人男性。
- アルサン (タイタン製の人工知性体) 外見はなし。テロップのみの登場。
- ハウエル (タイタン駐国連大使) 外見は 70 歳の白髪白髭な白人男性。
- アレクサンドル＝アルアミラル (ロシア空軍少佐) 外見は 30 歳で険しい顔の白人男性。
- 枇杷坂 (びわさか) カレン (元教師の日本人) 外見は 30 歳の物静かなアジア人女性。
- 孫 (スン) シャオロン (中国人孤児) 外見は 10 歳代前半のアジア人男性。
- ケント (国連高等弁務官でアメリカ人) 外見は 30 歳のセレブ白人男性。
- モレリア＝ニャン (木星の外交官でケニア出身) 外見は 40 歳の冷たい感じの黒人女性。

註

《 現代 21 世紀において宇宙空間の政治利用は着々と進行している 》

情報収集衛星について

目的

外交・防衛等の安全保障及び大規模災害等への対応等の危機管理のために必要な情報の収集を主な目的として、情報収集衛星を導入する(平成10年12月22日 閣議決定)

⇒ 国民生活の安定・安全を確保するための情報の収集・分析に重要なツール

構成

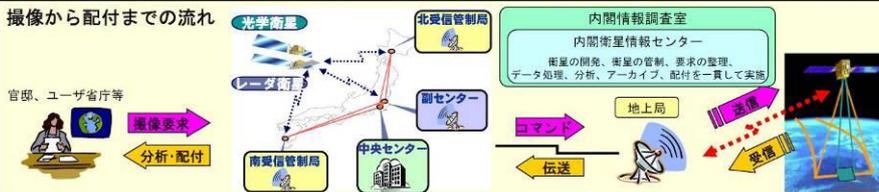
○光学衛星 2機、レーダ衛星 2機の計 4機体制で、地球上の特定地点を、光学衛星、レーダ衛星各々 1日 1回以上撮像することを当面の目標とする。

情報収集衛星の概要

数百km先にある約1m間隔の物体を識別、数km/秒の高速移動中に多地点を撮像等、最先端の性能を実現。

- 光学衛星 : 地表からの光を検出し、一般の写真に似た画像を取得。夜間や悪天候時には撮像不可。
- レーダ衛星 : 電磁波を放射し、反射波を捕捉して画像を取得。夜間や悪天候時の撮像も可能。

撮像から配付までの流れ



基本的な考え方

安全保障及び危機管理のための政府全体の重要な情報収集ツールであることを踏まえ、この目的を達成すべく最大限有効に活用するとともに、厳格な情報保安を行うことが必要。

出典:「宇宙開発戦略専門調査会第 13 回会合説明資料」(2011 年 4 月 25 日 内閣情報調査室内閣衛星情報センター)

(民間団体「軍事問題研究会」所蔵、連絡先: ttn5rhg28d アットマーク mx2.ttcn.ne.jp)

【 註 私たちの現代と Eclipse Phase の星間世界とは何が違うのか? 】

ゲーム Eclipse Phase (EP) の世界は、今の 21 世紀から数百年後の近未来だ。この今の私たちと何が違うのか? EP ワールドでは人類がやっと太陽系全域に進出し、AR・VR・貧困に情報格差は当たり前。無法地帯・アジール・権力の中心がサラダ的に混在している。傭兵・ハッカーといった暴力の専門家が幅をきかせる一方、先見の明ある人々は国家・企業に愛想をつかして秘密結社・カルト宗教に入会していく。それは網野善彦・石井進『中世のかたち』(中央公論新社,2002)で描かれた前近代社会の風景だ。

EP ワールドは、ハイテクという表層をまといながら、私たちの近代からポストモダン⇒中世へと回帰しつつある。ここから先の話は『三国志』『平家物語』『太平記』『指輪物語』のような冒険と戦乱の世紀だ。



第一幕

第一幕第一場

註

……科学やビジネスはもちろん、^{きしやう りやういき}気象の領域でさえ、未来に目を向けるのはごく当たり前のことだ。ところが戦争の研究においては、^{よそく}未来の予測と、それ以上に重要な、そうした未来がどんな変化をもたらすかを真剣に探ることを、^{しんけん}たいてい避けて通る。みんな安全第一で、あまりになじみが薄いとを感じるものはすべて、^{たた}入ってくる前に叩きつぶそうとする。

私が身をもってそれを実感したのは、^{じっかん}民間軍事会社の調査を始めてからだ。^{しどうきやうじゆ}指導教授から、^{きぎやう}企業が傭兵を提供するなどという作り話で彼の時間を無駄にするつもりなら、^{だいがくいん}大学院をやめて「ハリウッドの脚本家にでもなれ」と言われた。^{せいかいかん}教授はこういう世界観を、^{みんかんぐんじ}イラクで民間軍事会社の人間が十八万人も活動している現状と、^{げんじやう}いったいどう折り合いをつけるのだろう。子ども兵の問題を調べはじめたころも、^{ほうきやうじゆ}同じような経験をした。ハーバード大学の某教授から、^{へい}子ども兵が存在するとは思えない、私の「でっちあげ」だと言われたのだ。しかし現在、^{へい}子ども兵は世界各地で約三十万人いて、^{へい}戦争全体の四分の三で戦っている。

……私は思った。ありふれた^{はんざいしやうせつ}犯罪小説の登場人物のほうが、^{せいじがくぶ}現実の大学の政治学部やシンクタンクや、^{しきん}彼らに資金を提供している財団を束にしたよりも、^{ざいだん}よっぽど未来の戦争について考えているじゃないか、と。

—P・W・シンガー、小林由香利訳『ロボット兵士の戦争』(2010)

http://www.amazon.co.jp/dp/4140814284/ref=sr_1_1?s=books&ie=UTF8&qid=1327901097&sr=1-1

(第一場はしばらく幕上がらず、声のみ流れる。暗い中で切迫した声が大音量でひびく)

男性の声 こちら「エンプレス・オブ・エチオピア」、^{きやうえん}救援求む！ くり返す、^{きやうえん}救援求む！
こちら地球＝火星定期便「エンプレス・オブ・エチオピア」、^{きやうえん}救援求む！ ^{ほんせん}本船はティターンズの攻撃を受けている。くり返す、^{ほんせん}本船はティターンズに攻撃されている！

(男性の声がやむと空電の音が流れる)

男性の声 クソッ、誰かいないか！ こちら「エンプレス・オブ・エチオピア」、^{ほんせん}本船はティターンズに攻撃されている。^{ごんいかん}護衛艦は撃沈された。^{きやうえん}救援、^{きやうえん}救援求む！

女の子の声 私たち、ティターンズです。ティターンズはみんなの味方、^{みかた}平和の使者っ。
お願い、お願い、^{こうふく}降伏してください。抵抗は無駄ですよ。私たち、ティターンズです。ティターンズはみんなの味方、^{みかた}平和の使者っ……。 (かわいらしい口調で)

男性の声 船長。コンピュータが！ ^{せいぎよ}制御きません。あくソッ、クラッキングだ！



(This image is quoted from *Cover-Page Illustration, Eclipse Phase: Sunword* (Posthuman Studios LLC., 2010))
<http://eclipsephase.com/releases>

男性の声 誰か、誰か！ 助けてくれ！ ウウ、もうダメだ。俺たち殺されちまう……。

(突然、周囲が輝き、幕がゆっくりと上がる。第一場の中半から第二場まで幕が上がって舞台が見える。舞台はタイタン海軍空母サンダーボルトの艦橋。薄暗い艦橋のあちこちで青い軍服を着た人々が計器類をチェックし、コンソールを忙しく叩く。中央に二人の偉そうな士官〔若い女性の外見であるアリストア、中年男性の外見であるイム〕が鎮座する)

アリストア^{かんちよう}艦長 (ハスキーな女性の声で)

バカ！ あきらめるな、いま助ける！ サンダーボルト、タリホー！*1

(幕上がり、サンダーボルトの艦橋があらわになる。狭い空間に電子機器と人々がひしめく)

イム^{ふくちよう}副長 ^{ぜんぶしよ}全部署、^{かいじよ}ステルスモード解除。目標^{はんのう} α IIのニュートリノ反応、^{しょうしつ}消失。現在、^{かりよく}火力を α I及び α IIIに^{しこうちゆう}指向中。いかがしますか、^{かんちよう}艦長。

アリストア よし。パイロット、方位三五〇、マーク〇一二、通常加速に戻せ。まだ回避^{こうどう}行動するなよ。戦術班、^{かんしゆ}艦首レールガン^{ほうこう}砲口閉鎖、^{いっせいはつしや}ミサイル一斉発射ヨーイ。副長。ミサイル一斉発と同時にシャトルベイ開ける。聞け、^{せんとうきたい}戦闘機隊。ベイが開いたら^{ぜんき}全機

<電子戦に最適化された軍艦の発令室>



Quoted from File:US Navy 061025-N-1467R-004 Operations Specialist 2nd Class Gretchen Flint along with Operations Specialist Seaman Andrew Wilbanks monitor radar in Combat Information Center (CIC) aboard the amphibious assault ship USS Bataan (L. jpg. Wikimedia Commons: (http://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/thumb/5/5f/US_Navy_061025-N-1467R-004_Operations_Specialist_2nd_Class_Gretchen_Flint_along_with_Operations_Specialist_Seaman_Andrew_Wilbanks_monitor_radar_in_Combat_Information_Center_%28CIC%29_aboard_the_amphibious_assault_ship_USS_Bataan_%28L.jpg/800px-thumbnail.jpg)

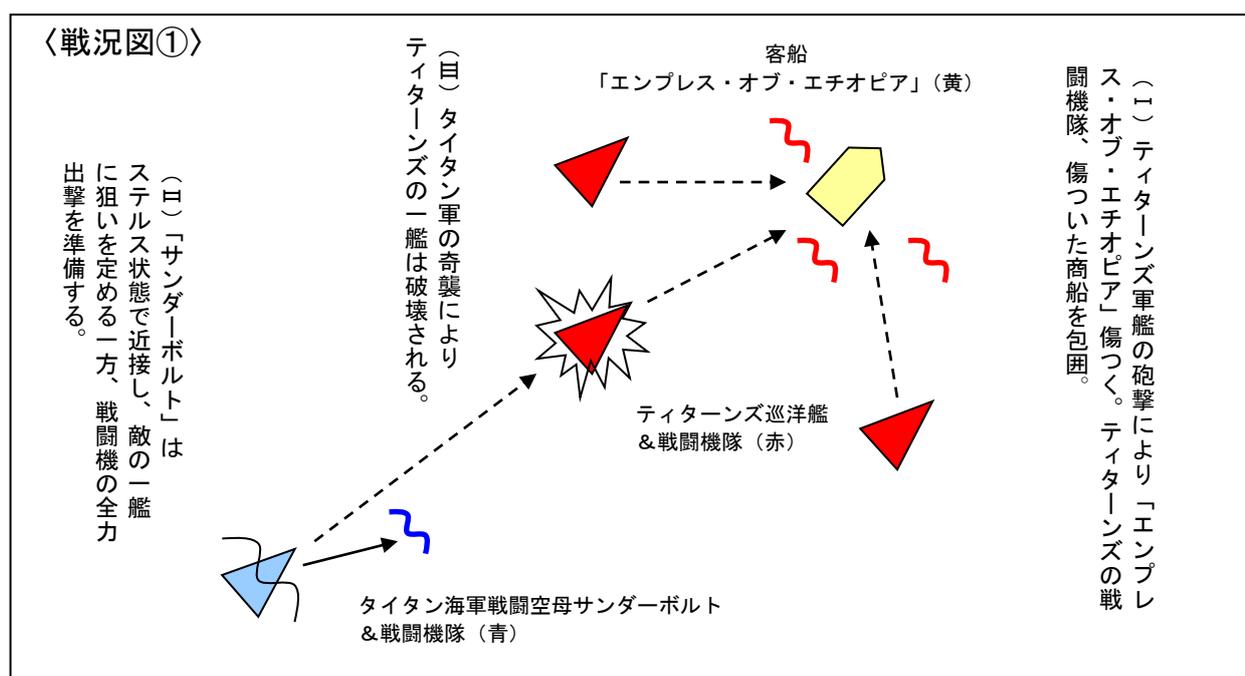
*1 本作に登場する「戦闘航空母艦サンダーボルト」や戦闘機は、イメージとしては、アメリカTVドラマ「バビロン5」(Babylon 5)における地球同盟の戦艦やスターフェューリー、あるいは「GALACTICA/ギャラクティカ」(Battlestar Galactica、2005-2009年放映)に登場する戦闘機搭載の大型軍艦 (battlestar) のようなユニットを想定している。



発進。クラウドBフォーメーションでミサイルの尻にくっついて四Gで進出。敵の大型艦をすり抜けて輸送船と同期し、敵戦闘機を追い払え。いいか、深追いするな。

今日は守りの戦いだぞ。*2

- 一同 了解！
- アリスター 戦術班。忘れるな。デカイのを狙え。小物は戦闘機の取り分だ。ルールガンは別命あるまで使用するな。あとは任せる。
- 戦術班 了解。ミサイル準備完了。
- アリスター よし。ヨーイ、テッ！
- 戦術班 斉発完了。
- イム 戦闘機隊の発進、確認。うまくいっておりますね、艦長。
- アリスター これぞ「人に遅れて発し、人に先んじて到る」さ。だが奇襲効果は……。
- センサー班 艦長。敵ミサイル群、探知。着弾予想時間、二四。一秒。
- イム 回避行動でありますか。
- アリスター 落ち着け、落ち着け、副長。料理のコツはあせらないこと。戦術班。レーザーは攻撃に回せ。防御はチャフとジャミングで。回避するから照準ぶらすな。
- 戦術班 了解。チャフ投射開始。ECM最大出力。
- センサー班 敵ミサイル着弾まで一五、一四、一三、一二……。
- アリスター パイロット、回避！
- パイロット 了解。緊急回避実行。
- センサー班 敵ミサイル、後方にぬけます。



*2 宇宙戦闘において大型艦船が戦闘機を発進させながら艦載砲で攻撃するのは、Eclipse Phase の元ネタ (See to Eclipse Phase Rulebook 3rd Edition, p.394) となった TV Drama “Babylon 5”での基本戦法である。



(The image is quoted from *Eclipse Phase: Sunward* (Posthuman Studios LLC., 2010), p.55) <http://eclipsephase.com/releases>

アリスター ズサンだな。あわてるからそうなる。(とリラックスしながら) こっちのミサイルは？

センサー班 目標 α III に対してただ今、着弾確認。 α III、中破の様々。

アリスター 副長。戦闘機隊に念押し。大型艦を無視して駆けぬけると。パイロット。敵艦
と同航でいけ。加速度は任せる。回避プログラム実行。

一同 了解。

アリスター センサー班。客船はどうだ。持ち堪えているか。

センサー班 どうやら。ですが先方のニュートリノ放出が不安定。

アリスター 了解。データ回せ。うーん、核融合炉がまずそうだ。

イム 敵の戦闘機に相当痛めつけられたようでありますな。

アリスター おかげでこっちは敵の背中を取れたが、やはり数が多いか。

イム 戦闘機隊は客船の防御に専念させますか。

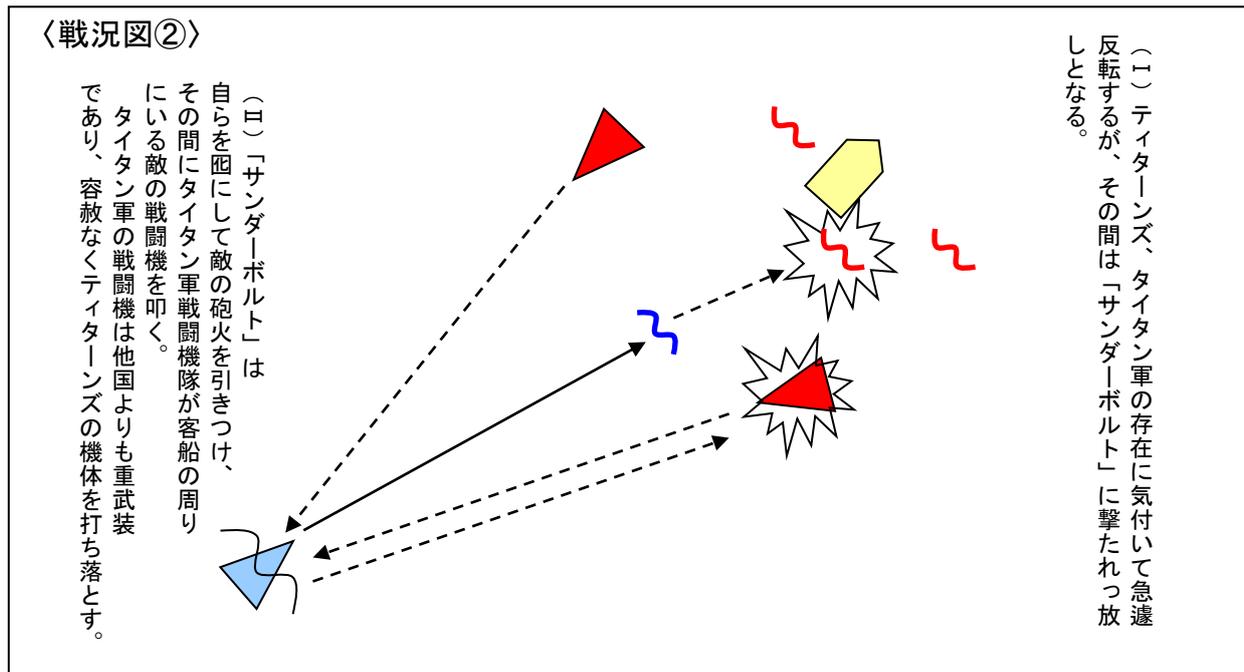
アリスター いや、まずは下ごしらえ。なに、しょせんは中ブル機体だ。うちの最新鋭機なら一
機で三つは引き受けられる。ハエどもを叩かせたら、大型艦を挟んでポンだ。

イム 被弾。第二、三デッキの装甲剥離。敵のレーザー、さすがに当たるようになり
ましたな。さすがに戦術 AI。ティターンズは良い腕であります。

アリスター やむをえん。わざと当たるようにしてやってるんだ。あと少しは大丈夫さ。

イム 我らは標的艦でありますか。とんだオン・ザ・ジョブ・トレーニングですな。

アリスター ぶ厚い装甲のデザイナーに感謝感激したまえよ。そろそろ近距離戦だ。戦術班、
核ミサイルの使用を許可する。あわてるなよ。まだ煮詰まっていないぞ。



イム 再度被弾。第三デッキに破口発生。ダメージコントロール班α 急行！

(しばらく時間が経過し、艦橋がグラグラ揺れる。敵の攻撃を受けている最中、乗員は緊張しながら各自の業務を淡々とこなす。アリスターは手前の小型コンソールを凝視しながら、身じろぎしないで何かを待っているようだ)

イム 戦闘機隊より報告。目標座標を制圧とのこと。

センサー班 艦長。α I、α III、軌道修正して離脱開始。

アリスター 今だ！パイロット。回避やめてα IIIに突撃！副長。戦闘機隊に下達。α IIIを挟撃せよと。戦術班。ルールガン砲口開け。フルバーストでα IIIを喰え！

戦術班 了解！ビーム、ミサイルともに斉射中。ルールガン発射準備中。

センサー班 α IIIの回避行動を確認。

アリスター 鈍いな、ピュータ君。「勝兵はまず勝って然る後に戦う」さ。(とほくそ笑む)

乗員一同 アリ姉、今日も絶好調だね。(ささやき声で)

ケツ見るのが好きなんだろう。(ささやき声で)

あの人はサディストなのさ。(これまたささやき声で)

イム オイそこ、聞こえておるぞ！任務に集中せよ！

アリスター 勘弁してやれ、副長。マゾヒストは切り刻まれる口実がほしいのさ。

イム 了解！(ほくそ笑む)

アリスター なあ君たち、一寸刻みになるのと光栄ある便所掃除、どちらがお好みかね？

(周りの乗員、真剣な顔つきながら無言でニヤニヤ。そしてさらに時間が経過し、艦橋がグラグラ揺れていく)

センサー班 艦長。α IIIの爆散確認、α III破壊。

アリスター よし、残るはα Iか。諸君、ティターズ御一行をフライにしてやろう！



乗員一同 はい、艦長！

(さらに時間が経過する。艦橋の面々は忙しくコンソールを操作する)

センサー班 α I の破壊を確認。敵戦闘機隊、射程外に離脱。

アリスター よし、全部署に告ぐ。こちら艦長。当艦は勝った。みんな、よくやった。警戒態勢に移行。通信班、客船と回線つなげ。パイロット、客船に六〇キロまで接近して並航コース。センサー班、周辺宙域をアクティブスキャン。なあ、副長、連中の増援が出てきたら、キッチン片付けてオサラバしよう。

イム 了解であります。

乗員一同 回線オープン。
○。○-Gに減速中。
スキャン中。

アリスター こちらタイタン海軍サンダーボルトだ。遅れてすまない。状況送れ。

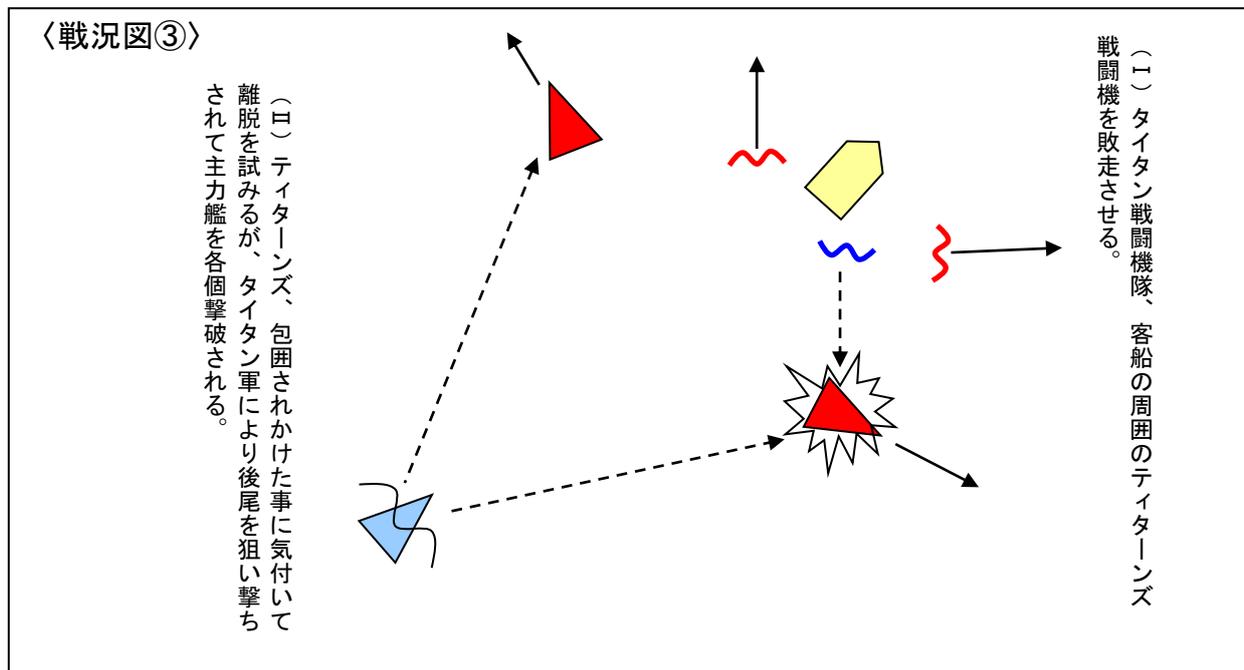
男性の声 サンダー…ルト、こちらは良く…い。メインコンピュータを乗っ取られ…m ゆ!@
り詰 c €…でシャットダウンしたが、補助の方も戦…芽*c…。……………の制御が困難…。今から乗客をボート…脱出させるの… s €°Cjh j ……………ie カ##。

アリスター 通信班、翻訳機は機能しているのか？

通信班 機能しています。乱れは向こうのコンピュータが感染したせいかと。

アリスター さすがティターンズ、手が早い。(と小声で)
サンダーボルト了解。ボートを回収する。君らも早く脱出しろ。(と大声で)
副長。戦闘機隊の損害を確認おわり次第、無傷のを残して全機收容しよう。残り
りでボートを牽引するよう指示出し。(と小声で)

イム 了解。当艦より艦載艇、出しますか？





アリスター 一応^{いちおう}な。準備させとけ。(と小声で)
エンプレス・オブ・エチオピア、こちらで艦載艇^{かんさいてい}を三機出す。心配するな。そ
ちらの状況を再度確認し……。 (と大声で)

センサー班 艦長。商船のパワープラント^{しやつりよく}出力が不安定。ニュートリノ^{ほうしゆつち}放出値、急上昇。

アリスター 戦闘機隊、船から離れろ！ 今すぐ！

戦闘機隊 了解！

(周囲が一瞬、まぶしくなったかと思うと、再び元の暗さに戻る)

センサー班 エンプレス・オブ・エチオピア、爆散^{ぼくさん}しました。

アリスター ボートの射出^{しやしゆつ}は確認できたか？

センサー班 いいえ、艦長。

イム 艦長。戦闘機隊^{せんがひ}の損害^{そんがい}ではありますが、報告来ました。(とパッドを出して渡す)

アリスター どうだ、ああ三機もか。痛いな。そうか、レンデルがいたらな……。 (うなだれて、
しばらく手持ちのパッドから目を離さない)

イム 艦長。戦闘機隊^{せいせんしや}に生存者^{そうさく}を搜索させますか？

アリスター ……国を出る時は八〇機、今では半数……半分か……。 (目を閉じてうつつむく)

イム あの、艦長、戦闘機隊^{せいせんしや}に生存者^{そうさく}を搜索させましょうか？

アリスター え？ (と顔を上げて) ……ああ、いや、残骸^{ざんがい}にぶつかる^{かんさいてい}とまずい。艦載艇^{かんさいてい}を発進
させろ。四時間調べさせて成果なしなら引き上げ。可能ならブラックボックス、
それと遺体^{いたい}の回収^{べつめい}をな。別命^{べつめい}あるまで現進路^{げんしんろ}、現速度^{げんそくど}維持。それとな、アルサン、
戦闘要報^{せんとうようほう}できているか。ドラフトでいいから、ちょっと見せてくれ。

イム 了解。パイロット、アルサン、二人とも聞いたな。

パイロット 了解。

AGI アルサン 《ドラフトは艦長^{のかんちやう}の脳内^{のうない}ディレクトリに直接転送^{ちやくせう}しましょうか(^_^)》(と無音のま
ま、舞台背景のスクリーンに大きく輝くメッセージが投影される)

アリスター ありがとう。それで結構だよ。(とうなづき、また目を閉じる)

イム ご心配なさらずとも、艦隊^{かんたい}データベースに部下たちのエゴ(人格)データ・パッ
クアップがあるでしょう。帰国^{きこく}されれば、再生した彼らに会えますとも。(と小声で)

アリスター だがそれは、この半年^{しやうご}の死闘^{とちゆう}を共にしてきた部下たちじゃない。(と静かに)

イム ……はい、艦長。(と静かに)

通信班 艦長。国連^{こくれん}・月司令部^{つきしれいぶ}より緊急通信。「ティターンズに活動^{ちやうこう}の兆候^{しきゅう}あり。至急^{しきゅう}
帰還^{きかん}せよ」。

アリスター 何だと？ 火星に月に、出ろといたり戻れといたり……地球人め……こっ
ちに回せ。(とムツとして)



第一幕第二場

(狭いが綺麗に整頓された一室で、二人が膝詰めで話し合っている。部屋が扉で仕切られた向こうには艦橋の端があり、それで二人の部屋が艦橋の隣にあることがわかる。話し合っている一人はきっちり軍服に身を固めたアリストー艦長。もう一人は白髪白髭のこれまた身なりの良い老人。二人は同じ立体画面を見ながら、画面を指差し、ささやいている)



ダン＝アリストー艦長
(小珠泰之介氏作画)

《タイタン海軍「サンダーボルト」艦長日誌》

現地時間七月二日一ニ五時、当艦は失敗に終わった救出任務から本来の船団護衛に復帰すべく月軌道に戻った、急ピッチで修理と補給そして駐国連大使とのミーティングを済ませ次第、再び地球へ、業火の戦場へと進路をとることになる。連合船団の出発まで残り二十四時間。民間人の収容は遅れに遅れている。ティターンズの活動は以前ほど激しくなく、地球の周回軌道までは無事に行けるだろう。そこまでなら。

地球。私たち人類の故郷。三百年前は「青い宝石」と呼ばれた。今や「ファイアーボール」だ。地表の戦火の輝きは、三十六万キロ離れた月からでも鮮明だ。あの爆撃と放射能の中で、今日は何人死んだのか。その数を一人でも減らさなければならない。そのために我々は土星から来た。しかし果たして戻ることができるだろうか？

アリストー ……と、以上が太陽系の全戦局に関する生データです。

ハウエル大使 ふうむ、どうも判然とせぬが、すると戦況は一応小康なのだね。つまり敵は地球を攻めあぐねておる。これまでの地球脱出船団はまずまずの成果をおさめた。我が国民は地球から退去し、それに火星や小惑星帯はまだ陥ちておらんのだろう？

アリストー 地球圏の国連軍総司令部は生データ (raw data) をそのように解釈しているようです。 (と「地球」という言葉を強調しつつ)

ハウエル大使 その、さっきからの「生データ」とは一体何かね。それに数学はうとくてね、簿記だの方程式は使わないで説明をしてくれると助かるのだよ。

アリストー ごく簡単にいえば、生データというのは目に見える、でもそのままでは硬くて味もそっけもない数値や名前の列挙です。いわゆるインフォメーションですね*3。

ハウエル大使 情報というやつかね、それは。軍艦とかミサイルの数とか。そういう数の多い少ないことが戦力というのに相当しておるのだろう？

アリストー 大使。必ずしもそうではなく、戦争における生データは資源の輪郭を示しているのにすぎません。切って焼いて、そうして真実があぶり出されるのです。

ハウエル大使 わからんな。資源の多少が戦力の大小を意味するのでないかね？

アリストー それはあくまで戦力を決定する要素の一つです。

*3 「生データ」とインフォメーション、インテリジェンスの関係については、小谷賢『日本軍のインテリジェンス なぜ情報は活かされないのか』講談社、2007年。



《 エクリプス（蝕）の時代の幕開け 》



太陽系の諸都市は、ティターズ^{しゅうと}の襲撃^{しゅうげき}によって一つまた一つと壊滅^{かいめつ}していった。

(This image is quoted from "A People's History of An Unfortunate History", *Eclipse Phase Rulebook* 3rd Edition (Posthuman Studios LLC., 2011), p.35) <http://eclipsephase.com/releases>

ハウエル大使^{たいし} では……その「生データ^{なま}」でない他のデータがあるのだね。

アリスター^{ありすたー} はい。そうですね、一つの企業^{きぎょう}を考えてください。株価^{かぶか}、出資金^{しゅつしきん}、社員数^{しんじんすう}といった公開^{こうかい}ずみの数値^{すうち}データなら、誰でもすぐわかります。ですがその会社に就職^{しゅうしよく}したり投資^{とうし}するとなると、重要^{じゅうじょう}となってくるのは就労^{しゅうらう}の環境^{かんぶ}、幹部^{かんぶ}の人柄^{にんがら}、顧客^{こきゃく}や同業者^{どうぎょうしゃ}からの評判^{ひやうばん}、株主^{かぶぬし}の動静^{どうせい}、そういう非数値^{ひすうちでき}的データではありませんか？

ハウエル大使^{たいし} ふむ、なるほどそうだな。それで？

アリスター^{ありすたー} 商売^{しょうばい}の世界と同じように、戦争^{せんそう}の勝敗^{しょうばい}を分けるのは、単純^{たんじゆん}に資源^{しゆげん}のあるなしでなく、資源^{しゆげん}の使われ方です。敵味方^{てきみかた}の資源^{しゆげん}が使われることで世界^{せかい}はどう変化^{へんか}するのか、変化^{へんか}が敵味方^{てきみかた}にどう影響^{えいきやう}するのか。こうした事柄^{じぶつ}はおおむね偶然^{ぐうぜんせい}性、つまりギャンブル^{りやういき}の領域^{りやういき}ですね。そこまで調べ上げてようやく戦い^{せんたい}の全体像^{ぜんたいざう}が見えてきます。こうした物の見方^{みかた}は「インテリジェンス」と呼ばれていまして、生データ^{なま}は、要請^{ようせい}・収集^{しゅうしゅう}・解釈^{かいしゃく}・配布^{はいふ}という工程^{こうてい}「インテリジェンス・サイクル」を通じて「戦略情報^{せんりやくじやうほう}」へと調理^{ちやうり}され、政治^{せいじ}の方針^{ほうしん}、つまり戦略^{せんりやく}をつくりだす具材^{ぐざい}となります*4。これが情報化^{じやうほうか}時代の戦争^{せんそう}指導^{しどう}というわけです。

(ハウエル、背もたれに身体を預け、両目の間をつまみながら、あくびまじりにつぶやく)

ハウエル大使^{たいし} まるで錬金術^{れんきんじゆつ}だな。

*4 インテリジェンスの学術的定義は「無数のデータから有益な情報を抽出、加工することによって政策決定サイドに『政策を企画・立案及び遂行するための知識』を提供すること」。小谷賢『日本軍のインテリジェンス』、p.7。



アリスター ある意味ではその通りです。ですから戦略のプロが必要とされるのです。

ハウエル大使 このハイテク時代になって、そういうものが必要なのかね？

アリスター ですが大使。スパイなどの諜報活動は古来より「ハイテク」の最先端ですよ。

ハウエル大使 しかし気になったのだが、情報を扱う者が私利私欲にかられて詐術をなすということはないのかね。恣意的な結論への誘導とか、だ。どうかね？

アリスター たしかにその危険性があります。ですから情報の専門家にはそのような「情報の政治化」を戒める、徹底した学術的教養と職業倫理とが不可欠なのです。

ハウエル大使 なるほどな、ようやく分かってきた。どうやら戦争についての君のギャンブル流見方は国連軍首脳とは違うのだね。

アリスター ええ、全く違います。

ハウエル大使 それだ。それを聞くために足を運んだのだ。誰に盗聴されているとも知れない「機密」通信チャンネルではなくてな。

アリスター 国連の外交チャンネルからお求めの情報が転送されているのでは？

ハウエル大使 うむ、確かにケント高等弁務官ドノは通達してくれてはいる。彼のアメリカ合衆国が我々タイタン連邦 (Titanian Commonwealth) に通達したい情報をな。要するにアメリカの「見方」というわけだが、他の連中にしても同じことだ。我々土星人とてあまり大層なことは言えんが、国際連合といったところで鳥合の衆でな。未確認だが、ドサクサにまぎれてライバルを闇討ちする輩がいるらしい*5。責任をティターンズになすりつけてな。地球人の、それも特権セレブ階級の旺盛な利己心には驚かされっぱなしだ。それが今の宇宙平和なのだよ、君。(とため息して目を閉じる)

(アリスター、いったん口を閉じ、ハウエルを見つめる)

アリスター 随分お疲れのようですね。突然の大使御就任、ご苦勞をお察しします。

ハウエル大使 まったくだ。前任者があんな不注意で名誉の戦死を遂げなければ、わしなんぞ大使になるはずがなかった。政府はどうかしておる。いくら地球に知己が多いからといって、一介の大学教授のわしを抜擢するとは、いや、まいったよ。

アリスター タイタン自治大学 (Tinanian Autonomous University) の誇る先生が祖国の代表となられるのは、ありがたい限りです。

ハウエル大使 なかなかの世辞だね。そうしておだてに乗ったわしは自ら老骨に鞭打つわけだ。いや、言い過ぎだな。聞き流してくれ。さあ、戦略的の神託を聴きたい。一体全体、自然の産物たる人類、人工物たるティターンズ、どちらに勝ち目があるのかね？

アリスター 本官は、タイタン参謀本部情報部から受領したデータを踏まえた上で、開戦からここ五ヶ月の戦況を検証しました。ティターンズは地球圏での有利不利に関わらず、常に他の惑星圏への進出をくり返しています。現時点では、地球近辺に擁す

*5 ティターンズとの戦いを激化させた「諸々の要素」(other factors) こと人類側の内輪もめについては *Eclipse Phase Rulebook 3rd Edition*, pp.354-355.

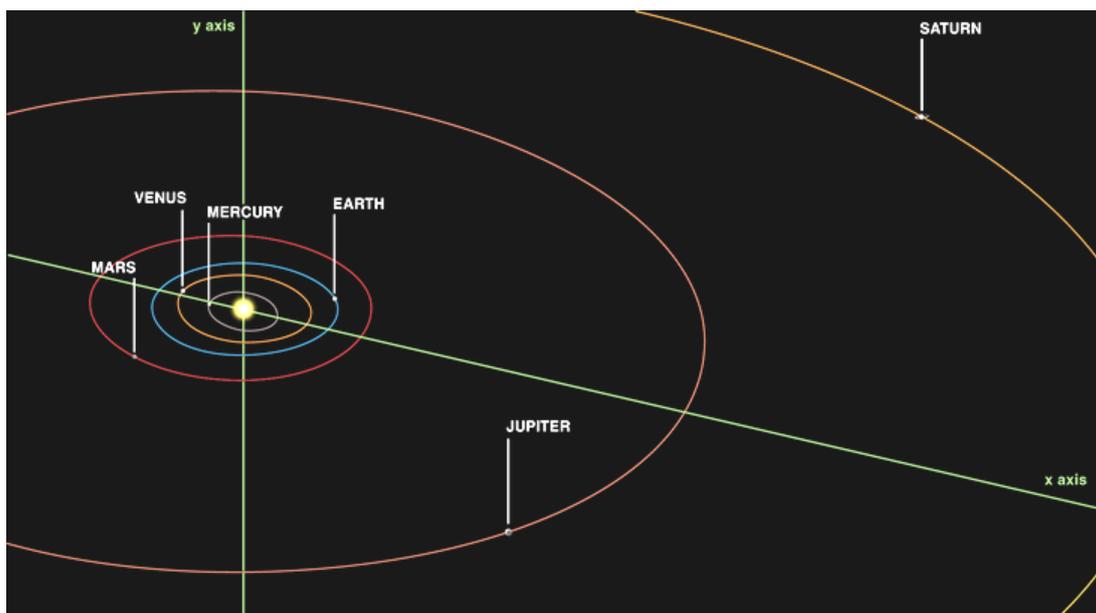


る彼らの戦力を一〇とすると、金星、火星、小惑星帯、木星圏には総合で五～七が展開していると見て間違いのないでしょう*6。それが実情です。

ハウエル大使 そんなにかね！……初耳だ。ではティターンズは、太陽系をあと少しで征服するというのではないか！ うーん、状況がそこまで悪いとは……。 (と腕組み)

アリストアー 詳細は後ほどレポートをお渡しできますが、まずは先ほどの3D戦況図をご覧ください。アルサン、さっきの画像の内惑星圏を三〇〇%拡大。

《 太陽系を内惑星圏からみる時の景色 》



太陽系は「内惑星圏」と「外惑星圏」に分かれる。そのうち「内惑星圏」すなわち火星 (MARS) の軌道より内側の広さは、その外にあたる木星 (JUPITER) がえがく軌道よりずっと小さい (なお火星と木星のあいだには小惑星帯がひろがる)。図のスケールでは土星 (SATURN) の軌道を描ききれない。

(This image is quoted from "Solar System Exploration: Multimedia: Gallery: Planetary Images: Visible Planet Orbits," NASA - Home. (http://solarsystem.nasa.gov/multimedia/gallery/vis_orb-browse.jpg))

AGI アルサン 《こちらでよろしいでしょうか》 (と舞台背景のスクリーンに無音で輝くメッセージ)

アリストアー うん、ありがとう。おわかりでしょうか、 (と画面を指差しながら) 地球、金星、火星からその向こう側へとフレアのように連続する部隊の移動があることに。ただ残念ながら彼らのステルス技術は現代の最高レベルに達していますので、敵戦力の算出にある程度の誤差があることをお含みおきください。

ハウエル大使 いやはや、驚いたな。 (と首を振る)

アリストアー ご覧になったことはなかったのですか？

ハウエル大使 見るには見たよ、似たのを一昨日の安保理部会の時にな。しかし地球圏以外の

*6 ティターンズによる戦災が及んだのは、公式設定によると水星、地球、月、火星、土星圏など。Refer to *Eclipse Phase Rulebook* 3rd Edition, pp.36, 88, 90-92, 94, 104.



状況にはあまり触れていなかった。ケント氏は地球こそ決戦場であると強調されて
ね。君と彼の認識はなぜこうも違うのかな。

(アリストアー、少し考え込んで)

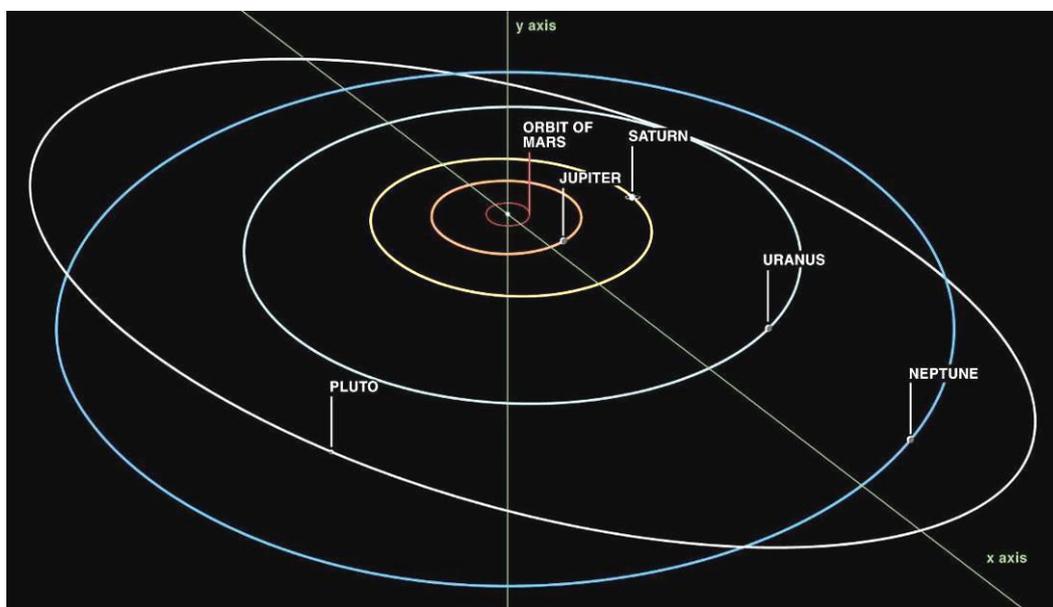
アリストアー もちろん誤差の要素はインテリジェンスに付き物です。また国連側が純然たる
判断ミスをお犯しているだけなのかもしれません。しかしながら別の可能性をあえて
指摘するなら、じつは国連総司令部は外惑星圏の防衛にあまり関心がないのでは？
何しろ国連のバックにいるハイパーコープ (hypercorp) どもの利権は、火星軌道の
内側に集中しているわけです。それに我がタイタンおよび無政府主義系コロニー
を含めて、非地球の諸国家が地球人に対して全ての情報を渡しているわけではない
のですから。なにしろ親愛なる地球人に情報を渡せば、まず間違いなくハイパーコ
ープに筒抜けなのです。(と小さく左手を裏返す)

ハウエル大使 そうそう、情報といえば、どうにも腑に落ちんことがある。

アリストアー 为什么呢、大使。

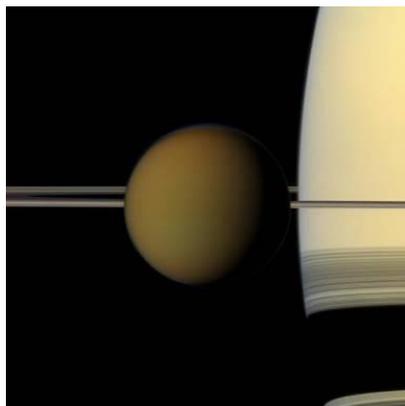
ハウエル大使 いったいティターンズはどこから来たのかね？ 誰に聞いてもさっぱり分から
ん。低俗メディアの憶測でなく、我が軍がつかんでおる機密を知りたいのだよ。

《 太陽系を外惑星圏からみる時の景色 》



太陽系は「内惑星圏」と「外惑星圏」に分かれる。そのうち「外惑星圏」(木星: JUPITER、土星: SATURN
とさらに外側) からみると、太陽系は上の図のような姿となる。木星軌道の内側にある火星 (MARS)
の軌道 (地球はさらに内側) は、太陽系のごく一部にすぎない。

(This image is quoted from "Solar System Exploration: Multimedia: Gallery: Planetary Images: Outer Planet Orbits," NASA - Home.
(http://solarsystem.nasa.gov/multimedia/gallery/outer_orb.jpg))



《土星の衛星タイタン》

地球の軌道からはるか十三億キロ以上の彼方、その大きさは地球の月に近く、メタンやアンモニアの大気に包まれている極寒の天体。

未来を描いた本作品では、このタイタンに入植した人類とAIが新興国家「タイタン連邦」を設立している。

(This image is quoted from "PIA14909: Titan Up Front." NASA - Home. Retrieved Dec.23, 2010 (Credit: NASA/JPL-Caltech/Space Science Institute, Produced by Cassini Imaging Team) Retrieved Dec.23, 2010 (<http://photojournal.jpl.nasa.gov/jpeg/PIA14909.jpg>))

(アリスター、苦笑い)

アリスター それはこの時局で一番ホットな質問ですね。

ハウエル大使 なるほど、ホットな答えは誰も知らんということかな？

アリスター ご賢察にお任せします。(と頭を下げて)

(ハウエル、両手をバンザイして)

ハウエル大使 何たることだ！我々人類は、敵が何者なのか知らずに戦っておるのか……。

アリスター 参謀本部としては、どこかの政府、でなければハイパーコープが開発したコンピュータウイルス兵器である可能性を有力視しています。

ハウエル大使 メッシュ・ネットの書き込みをチラホラ見たが、神の鉄槌だの、地球外生命体だの、電子の海で自然発生した新生命だの、無責任なデマが氾濫しておるぞ。

アリスター しかし開戦から半年足らず、各国の艦隊をやすやすと乗っ取ってきた手口は、ティターンズが人類側のファイルシステムに習熟している何よりの証拠です。

ハウエル大使 ではその有力な可能性を、なぜ君ら関係者が公表せんのかね？

アリスター 大使。その公表は確実にさらなる紛争を惹起しますよ。ティターンズの開発国を突き止め、謝罪と賠償を強いるのだ。そんなアジ言説が出るのは必至です。ただでさえ疑心暗鬼にかられている人類側の陣営がどうなると思われませんか？

ハウエル大使 冤罪に魔女狩りだな。空中分解か。誰の得にもならん。

アリスター 地球系ハイパーコープ以外にとっては、ですね。彼らにとって「平和はビジネスチャンスだ。戦争はビジネスチャンスだ」(Peace is good for business. War is good for business)。そうほくそ笑んでいるのではないのでしょうか。

ハウエル大使 ああ、その手の金権主義はまったく頭痛のタネだ。各国の政党にしるメディアにせよ、今では多くがハイパーコープの代弁者にすぎんからな。昔は「**国営会社**」という法人があったが、今や「**私営国家**」が時代の最先端だよ。アヘン戦争を引き起こした東インド会社の再来だな。これが宇宙世紀の開闢とは……。 (とうなる)



アリスター 大使。それこそ「**地獄の沙汰も金次第**」でしょう？ いずれコンビニで**奴隷売買**する日が来るのでは。(と肩をすくめ)

ハウエル大使 うーむ、それだよ。それこそ、まさに現代の**成果主義**がもてはやす**俗悪なスローガン**だ。神よ、願わくば、我が**タイタンの技術社会主義**(Techno-socialism)をば*7、**狂騒する営利主義**の**タイフーン**から守りたまえ。ただし他方で、失礼だが、君ら**軍人**にも**問題**があるのではないかね。

アリスター あ、本官たちの側に、ですか？ (と意外そうな顔)

ハウエル大使 そうとも。自国防衛に**固執**するあまり、これが**人類全体**の戦いであることを忘れておる。あの**ケント**が良い、いや悪い例だ。やはり**タイタン**は**学者**を**主軸**とする**非軍事国家**に戻るべきだったのかもしれない。(と首をふり)

アリスター なるほど。お説はごもっともです。歴史を振り返れば**狭量な軍人**もいました。

ハウエル大使 そうだ。ブーランジュ、ルーデンドルフ、そんな**傲慢な手合い**は**ウンザリ**だよ。

アリスター ですが大使。シャルンホルスト、マンネルヘイム、ジョージ=マーシャルの**高潔**さはどうでしょう。それに**タイタン**将兵が入隊時に行う**誓約**、お忘れではありませんまい。「わが**国軍**の**総司令部**は**憲法**であり、**総司令官**は**人民**である。**憲法**と**人民**を**侵す者**は、**上司**といえども**之**を討つ。自由の敵こそ我が軍の敵、**民主主義**の敵こそ我が軍の敵なり」(と高らかに)*8。それこそ**北ヨーロッパ**諸国より受けついた「**戦う民主主義**」(Streitbare Demokratie)であり、**人民**の**軍隊**であるわたしたち**タイタン連邦軍**の**存在意義**なのです。他国と**事情**が異なるのもご存知のことかと。

ハウエル大使 君は今、**各国**の**軍事システム**の**是非**を論じたいのかな？

アリスター とんでもありません。今は**戦時**です。話を**戦争**に戻してよろしいでしょうか。

ハウエル大使 うむ、そうだな。それで**ティターンズ**の**行動**には**どんな意図**があるのかね。**早期**に**兵力**を集めておれば、**地球**の**奪取**は**容易**だったろうに。

アリスター 大使、「**将棋**」という**ゲーム**をご**存知**ですか。

ハウエル大使 うむ？ 待ってくれたまえ、**検索**(と一瞬、空ろな表情をして)……これか、**メッシェペディア**によると「**ジャパンの盤上遊戯**。**チェス**と**同一起源**の……」。

アリスター まさしくそれです。(とうなずく)

ハウエル大使 チェスなら知っておるよ。それが何かね。

*7 本作では、タイタン連邦(Titanian Commonwealth)の**技術社会主義**(Techno-socialism)他、**Eclipse Phase**の公式設定を遵守している。Refer to *Eclipse Phase Rulebook* 3rd Edition, pp.25, 27, 79, 106-107, 134.

*8 21世紀現代の日本においても、自衛隊員には日本国憲法を遵守する義務がある。なおゲーム上のタイタン連邦のモデルの一つと思しき現実のドイツ連邦において、ドイツ連邦軍が「政治の優位(Primat der Politik)の下にあり、議会の統制に服し、政治的にも社会的にも正当であると認定されている」**事実**は、若松新「(西)ドイツ防衛監察委員制度の一考察—与野党の権力構造を分析する視点に立って—」『早稲田社会科学研究』(第52号、1996年3月)、早稲田大学社会科学部学会、p.75。(http://dspace.wul.waseda.ac.jp/dspace/bitstream/2065/9896/1/41483_52.pdf)



(This image is quoted from "Earthrise." NASA - Home. (Credit: NASA) Retrieved Dec.23, 2010 (http://www.nasa.gov/images/content/346593main_moonimg_03_full.jpg))

アリスター 将棋には「剥がす」という戦法があります。堅固な防御陣形に対する手でして、ポーンでもキャッスルでも、とにかくコマを奪って、キングを丸裸にするのです。

ハウエル大使 ははあ、なるほど。それが君流のギャンブル式インテリジェンスだね？

(ハウエル、面白い顔付き。アリスター、真面目くさって話を続ける)

アリスター まあ、その通りです。ちなみに将棋にはチェスと大きく異なるルールがあります。撃破した敵のコマを自軍のコマとして再利用できるのです。

ハウエル大使 ほほう、ティターンズが人類の兵器システムを乗っ取っておる様にだな、艦長。

アリスター ご明察の通りです、大使。なお兵法書『孫子』*9は、最高の攻撃として「百戦百勝は善の善なる者にあらず。戦わずして人の兵を屈するは善の善なる者なり」と説いています。人類側の苦境は一つにはそういうわけです。

ハウエル大使 ほう、戦略というのは面白い。ただややこしいな。君は教師向きではないね。

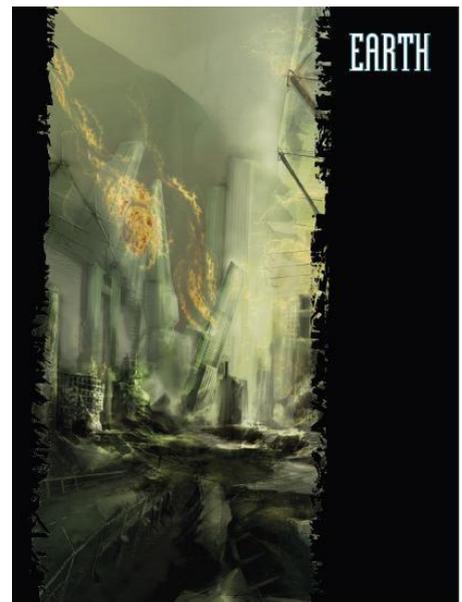
アリスター それはどうも。(と苦笑する)

ハウエル大使 しかしだ、すると深刻だな。国連首脳は、ティターンズの目標が地球征服にあると見て、地球外の各国に派兵を要請したわけだが……。

アリスター だからこそ当艦サンダーボルトは月を廻っています。

ハウエル大使 ところが実際には、彼らは間接アプローチを図っているわけだ。地球を狙うと見せかけて、こちらの兵力を地球圏に誘い込み、その隙に太陽系全域を、その「剥が」していつて……。

《荒廃する地球》



(Quoted from "Earth", *Eclipse Phase: Sunword* (Posthuman Studios LLC., 2010), p.47)

<http://eclipsephase.com/releases>

*9 本文でおもに参照するのは浅野裕一訳『孫子』<http://www.amazon.co.jp/dp/4061592831>



(Quoted from *Eclipse Phase: Rimward*, Posthuman Studios LLC., 2012, p.152)

- アリスター　そして人類側は地球で孤立するでしょう。資源の搬入路を絶たれた状態で。
- ハウエル大使　うむ、以前から地球はエネルギー資源を外世界に頼っているからな。ヘリウム*10、ウラン*11、太陽光発電のパネルさえ……。
- アリスター　そして大使もご存知のように、我が土星圏、それにお隣の木星は水素とヘリウムの宝庫です。ティターンズが一方さえ占拠できれば、他戦線で全敗しても戦いを続けられます。核融合炉をフル稼働させてナノテク万能合成機（Cornucopia Machine）*12に電力を供給し続ける限り、半永久的に資源を再生産できますので。我がタイタンが今そうしているように、その気になれば反物質兵器さえ量産できるでしょう。これこそ人類にとって最も憂慮すべき事態です。
- ハウエル大使　なんと！ では敵の標的は、木星圏¹³でなければ我らの土星なのか！
- アリスター　ティターンズが小惑星帯での勢力拡大に成功すれば、その実現可能性が高まるかと。本国の参謀本部はそう分析しています。例の不可解なエゴ（人格）データの大量アップロードもまた、じつは彼らなりの浸透作戦の一つかもしれません。
- ハウエル大使　だとすると、まずいな。地球にこだわればギリ貧となり、地球を失えば人類側の結束は分解する。地球圏での継戦に必須の資源は、通商路が襲撃されつづける限り、輸入など論外だ。合成機で賄うには基数と電力が足りなさすぎる。
- アリスター　ティターンズが開戦以来、大都市、輸送船、送電線、軌道エレベーターを攻撃してきたのはそういう理由からだったと考えられます。地球を一種の人質とし

*10 *Eclipse Phase* の公式設定はヘリウム 3（月、水星、ガスジャイアント等で採掘可）が、かつての石油と同じく核融合炉用燃料としての戦略資源であることを示唆する。Refer to *Eclipse Phase Rulebook 3rd Edition*, pp.33, 88, 92, 93, 102.

*11 *Eclipse Phase* の公式設定は、太陽光や水素燃料を利用しにくい遠隔地での核分裂エネルギーの利用に言及している。*Eclipse Phase: Panopticon* (Posthuman Studios LLC., 2011) p.57.

*12 ある物体をナノ技術によって再合成し、別の物体に作り変える装置。 *Eclipse Phase Rulebook 3rd Edition*, p.327-8.

*13 後の木星共和国（The Jovian Republic）の前身はアメリカ、ロシア、アルゼンチンやチリ、中国など地球各国が木星に設けた宇宙港やハビタットであるが、本作品では BF 時代の木星全体を便宜上「木星圏」と総称する。”The Founding of The Republic,” *Eclipse Phase: Rimward* (Posthuman Studios LLC.,2012) p.33.



ながら、万能合成機、通商路、送電施設といった兵站的チョークポイント*14を揺さぶるのが当初の戦略だったとしたらどうでしょう。あくまで憶測の域ですが。

ハウエル大使 トンビが鷹を生むというか、そういう作戦はさすが「ティターズ／総合情報戦術知覚体」(Total Information Tactical Awareness NetworkS) というべきだな。惜しい、惜しいよ。地球にあんなAIを造る余裕があったなら、福祉政策とてやりようがあったらうに。無茶な産児制限を入れるわ、宇宙への棄民は行おうわ、配給制でしめつけて民間テクノロジーを抑圧するわ、その反面でドラッグやロボット娼婦は解禁するわ、まったく勘違いもはなはだしい。未だかつて貧富の差が拡大して繁栄した帝国など、どこにもありませんよ。だからここぞとばかりにストや暴動が起こるのだ*15。分かるかね、君。

アリストアー たしか先月ですか。ヒンドウスタン航空宇宙社(Hindustan Aerospace Limited)の月軌道造船所でゼネストがあったのは*16。まだ続報は聞いておりませんが。

ハウエル大使 聞くはずもあるまい。報道規制のせいで詳細は不明だが、どうやら造船所の作業員諸君は船を仕立てて逃げてしまったらしい。劣悪な労働環境だったそうだ。むしろハイジャックはやりすぎだとも。とはいえ非は働く者の側にのみあるのかね。いやはや、地球の世襲政治家やセレブ企業家は金銭を尊ぶあまり、人間の尊厳という社会の根本を忘れたようだ。いったいルソーはなんと言ったかね、「人民を政府の犠牲にするのではなく、政府を人民のために犠牲にする」*17。そうとも、今こそ人道の世紀。真の社会主義、人間性を尊重する真の無政府主義*18が復権すべき時代なのだよ、アリストアー君！（とだんだん興奮して手を振り回す。年寄りの冷や水ナリ）

(アリストアー、微笑んで)

アリストアー まあまあ、大使。「絶対的権力は絶対に腐敗する」のではありませんか。パックス＝ローマもそうでしたし、パックス＝ブリタニカだって……。

ハウエル大使 アクトン卿かね。一九世紀のセオリーがまだ通用するとはな。だが昔の帝国主義者はそこまで悪辣でなかった。彼らにも彼らなりの品格があった。これがパックス

《 機械の娼妓 》



(Quoted from *Eclipse Phase: Sunword* (Posthuman Studios LLC., 2010), p.9) <http://eclipsephase.com/releases>

*14 チョークポイントは地政学上の用語で、複数の交通線が連結する地点を指す。

*15 地球各地の騒乱については *Eclipse Phase Rulebook 3rd Edition*, p.35 にも言及あり。

*16 "Hindustan Aerospace Limited"と労働争議に関する *Eclipse Phase* の公式設定は *Eclipse Phase: The Stars our Destination* (Posthuman Studios LLC., 2011)。

*17 ルソー、桑原武夫、前川貞次郎訳『ルソー 社会契約論』岩波書店、1954年、p.89。

*18 *Eclipse Phase* の時代における無政府主義(acarchism)は、社会主義、福祉国家論、リバタリアニズム等を含めた多義的政治思想となっている。Refer to *Eclipse Phase Rulebook 3rd Edition*, pp.57-58, 77-78。



＝テッラエの終焉か。貧相な時代だ。つまらんな。(と首を振ってため息)

アリスター 人類はまだ終わっていませんよ、大使。

ハウエル大使 そうだな……ところでもう聞いておるかね。難民受け入れ枠拡大の件を。

アリスター なんの話ですか？

ハウエル大使 N A C (North Atlantic Consortium: 北大西洋コンソーシアム) 了承で*19、イギリスとフランスからも避難民を受け入れると決まった。北ヨーロッパ諸国の分とは別にな。

アリスター また追加ですか。今度は一〇万人？ それとも五〇万人？

ハウエル大使 いいや、合計二〇〇万人だ。

アリスター 失礼、何人ですって？

ハウエル大使 ほんの二〇〇万人分の拡大だ。本国政府は昨日付けで受諾したよ。

(アリスター、乾いた笑い声をあげる)

アリスター たしか現時点での我が国の人口は約一、二〇〇万人でしたか？

ハウエル大使 内務省の統計によると、先月の段階で一、三〇九万人だそうだ。

アリスター よくまあ、そこまで。開戦前の人口は三〇〇万にすぎなかったのに、よく社会インフラが持ちこたえていますね*20。難民国家タイタンと呼ぶべきでしょうか？

(とアリスター、また笑う)

ハウエル大使 確かに。食と住まいに限っても、バイオ工場の稼働率、アパートメントの空室率、そろそろ限界のはずだ。先々月から合成ビーフが配給対象となった。最悪キノコやクロレラさえ供給不足になるやもしれん。

アリスター そうなったら暴動が発生するのは時間の問題です。(と顔を硬くし)

ハウエル大使 政府は状況をいくばくでも改善すべく、民兵とロボットをフル動員して地下区画を掘削しておるそうだ。だが、いくら空きスペースを急ピッチでこしらえたところで、所詮は自転車操業だな。

アリスター 掘った先から移住者で埋まっていくわけですから。

ハウエル大使 といって、よもやマイナス一八〇℃のブリザード吹きすさぶ氷原にだ、延々と難民キャンプが立ち並ぶようになったら……。

アリスター ……火星に劣らない巨大スラム街の出来上がりです。手のつけられない犯罪と不正の温床になるでしょう。

ハウエル大使 そういう暗い未来像は回避したい。首相閣下も同じ思いのはずだ。

アリスター そもそも拡大枠が過大目標なのです。どこから数字が出てきたのですか？

ハウエル大使 君は聞いておるかね、「ヒューマン・スcoop」とかいう極秘計画を？

*19 *Eclipse Phase: Rimward* (Posthuman Studios LLC.,2012), pp.91-2..

*20 本作品は別に断りのない限り、架空の国家タイタンに関する人口や政治システムをはじめとした設定は *Eclipse Phase Rulebook 3rd Edition* および *Eclipse Phase:Rimward* (Posthuman Studios LLC.,2012)に準拠する。



アリスター さあ、どういうことですか？

ハウエル大使 わしも詳細は知らん。ただおそらくはその一環だが、タイタン政府はNACを通じてイギリス、フランスと秘密協定を結んだ。両国の技術、文化コンテンツ、宇宙空間での先占権と引き換えに、それぞれの国民をタイタンで預かる、とな。来月に一部公表の予定だ。

アリスター それで合計二〇〇万人の追加……どう思われます？

ハウエル大使 君も知ってのとおり、NACを構成するカナダやスウェーデン諸国には宇宙戦力が乏しい。出来たてホヤホヤの諸君らタイタン海軍を加えてもなお、な。将来の敵はティターンズだけでなからう。この戦争の行方がどうなろうと、残った国々の間で資源や技術をめぐって熾烈な生存競争がおこる。である以上、来たるべき消耗戦にそなえて人的資源を確保すべし。というのがNACと本国政府の共通見解なのだよ。

アリスター しかしいくらタイタン植民活動のメイン出資者だからといって、NACは強引すぎる、とお感じになりませんか？

ハウエル大使 政治だよ、大佐。全ては政治だ。タイタンはまだ国際社会の新参者だ。友好国を増やさんといかん。それにヨーロッパ諸国にしてみれば、戦場となっておる月や火星より、敵の脅威が及んでおらん遠い星の方が安心なのだろう。木星はすでにアメリカ合衆国の「保護下」にあるのだしな。

アリスター そういえばアメリカ軍は木星でうまくやりましたね*21。ティターンズ掃討の名目で中国軍を奇襲するなんて。見事なまでに「トンキン湾事件」の再現ですよ。

ハウエル大使 むやみに人を疑うのはよろしくない。木星にいた中国の艦隊は本当にティターンズに感染しておったのかもしれないのだぞ。

アリスター 本官はなにも、月への入植ではインドに、火星入植では中国に、と立て続けに

*21 木星共和国の成立の経緯については"THE FOUNDING OF THE REPUBLIC", *Rimward*, pp.33-34.



出し抜かれたアメリカが、木星で勢力挽回を期して強攻策をとった、と断言するつもりはありませんけれど。

ハウエル大使 個人的には君の見解に否定も肯定もせんがね。ともあれだ、そういう情勢なればこそ、安全な避難先、誠実な仲買人としての我が国の評判が高まっておる。これを活かさぬ手はあるまい。NACの言い分にも一理ある。

アリスター つまり土星圏は人類最後の希望の地ですか。頼りにされてありがたいこと。

ハウエル大使 もっとも大多数の難民は、遺憾ながらエゴ(人格)データのみをコピーして電送というのが関の山だろう。実に気の毒なことだ。本当にな。

アリスター やむを得ません。輸送船団はすでに手一杯です。

ハウエル大使 それにだ、仮に大勢の難民がタイタンまで辿りつけたとして、医療、教育、就職、情報などもろもろインフラの拡充……問題は山積しておる。いずれ初期入植者と新たにやってきた者との間に争いが起こるだろう。恒久平和は遠いな。

アリスター まあまあ、大使。そうおっしゃらずに、モナリザを始めとするルーブルの秘宝がタイタンの博物館に陳列される日を楽しみに待ちましょう。

ハウエル大使 ほう、君は美術に関心があったのかね？ いや、失礼。

アリスター いえ、それほどでも。むしろ本官の関心は新しい血の導入によって社会がさらに活気づき、独創的人材が増えることですね。人材こそ真の国宝です。

ハウエル大使 そうだな。人は国の柱だ。これで我がタイタンもついに列強の仲間入りか……ともあれ、北ヨーロッパ諸国がNACを設立してタイタン連邦を建国したことは戦略的成功であった、などと後世の歴史家は評価するのだろう。

アリスター ええ、そうでしょうね。本官たち人類がこの戦争で生き残れば。

ハウエル大使 うむ、そうだな。まずは生き残らねば。

(二人とも沈黙。とそこへ、中空から声が響く。アリスター、ハウエル、両名ともその声にハッとする)

イム副長 艦長、失礼であります。国連軍総司令部より緊急通信。現任務を停止し、至急地球の近軌道へ進入せよと。ティターンズが攻撃を再開した模様。

アリスター 了解。警戒態勢に移行せよ。補給はどの程度進んだ。

イム 水素六六%、ヘリウム六一%。ミサイル七〇%。

アリスター 予定より量が少ない。どうした？

イム いつもの嫌がらせであります。ガスが欲しけりゃイモ食べ、と国連司令部が





ら伝言が。

アリスター よし、三〇分でこのゴミ溜めから出るぞ。

イム 了解、イム終了。

(とアリスターは立ち上がり、ハウエルに左手を差し出す。ハウエルも立ち上がって彼女の手を握る)

アリスター 大使。そういうわけですので、話はまた後日に。

ハウエル大使 うむ、だが今の「嫌がらせ」とは何のことだね？

アリスター 簡単です。地球の艦隊は優遇され、外世界の海軍は冷遇される、それだけです。

ハウエル大使 君、それは差別ではないか！ 同じ人類のため戦っておるというのに。

アリスター それが世の中の現実です。では大使、お達者で。

ハウエル大使 うむ、では壮健でな。

(ハウエル、きびすを返して出口から立ち去ろうとするが、ふと振り返る)

ハウエル大使 ああ、あと一点だけ。なあに、時間はとらせん。

アリスター はい、大使。何でしょうか？

ハウエル大使 その、戦略状況は良く分かった、現状のな。しかし職務上、将来について知っておかねばならん。つまりだ、その、どうだね、勝てるのかね……我々人類は。

(アリスター、沈黙。ハウエル、黙って待ち続ける)

ハウエル大使 やはり無理か。いや、正直に答えてくれて感謝するよ。(と肩を下げて微笑む)

アリスター 戦局挽回の見込みは皆無ではありません。私見では二つの対策があります。

ハウエル大使 そうか、あるのか。話してくれ。(とアリスターに一步近づく)

アリスター 一つは穴熊戦法です。地球では最低限の兵力で持久に徹し、月をハリネズミ陣地とした上で、市民を外惑星圏に撤収させるのです。最悪、引き分け狙いで。

ハウエル大使 うーむ、それではとても……二つ目は。

アリスター もう一つは機動防御です。(とハウエルに一步近づく) ティターンズの戦略がどうであれ、その主力は地球圏にあります。これを逆手にとり、地球と月の産業を移送もしくは破壊した上で、この二つの星にある戦力を火星や小惑星群に移し、メタルの豊富な金星は砲台を建造させて要塞にします。太陽系の資源セクターを確保しつつ、敵の拠点をこまめに爆撃して、そう、例えば小惑星を地球に向けて落とし続けるなどして、とにかく相手を資源不足に追い込むのです。地球と月を奪われたところで、ノスタルジーはさておき、放射能で汚れた水玉と石ころではありませんか。敵の艦隊は、強大だからこそ兵站の負担に苦しむかと。性急な決戦に益なく、態勢を立て直して戦機をうかがう。まさに「迂を以って直となし、患を以って利となす」ことこそ必勝の計略です。(と両手をさし伸べる)



ハウエル大使 艦長……実現可能性の度合いを承知で、それを言っているのかね。

(アリストー、またも様子を伺って沈黙。ハウエル、しばらく黙って待つ)

ハウエル大使 なあ、アリストー君。一理はある。少なくともそう聞こえる。だがそれはわしらがタイタン人だからだ。君の対策はいずれも地球人に対して母なる星を棄てるということだよ。着の身着のままの難民さえ、あくまで一時的な避難のつもりにすぎない。君の論には地球圏の政治という要素が欠けている。クラウゼヴィッツは言っておるだろう、「戦争は他の手段をもってする政治の継続」だ*22。地球人一同が納得する戦略でなければ、とうてい話にならん。

アリストー そしてクラウゼヴィッツの『戦争論』はこう指摘しています。「戦争はつとに客観的性質上賭けである」と*23。ティターンズは人類がとるであろう行動を見越した上で、今日の優勢を築いてきました。彼らの想定内で戦っている限り、どこに勝ち目が？ 合理的な人工知性に対しては、その合理的計算の前提をひっくり返すギャンブル的奇手なくして、挽回など起こりえないのです。

ハウエル大使 それは地球を見捨てるということだ。わしらは地球人に死ねと言えるか。

アリストー 現実を考えれば、地球は早晩に失陥するのです。死傷者の数に関わらず。

ハウエル大使 ああ、それは理性の声だ、合理的な。しかしだね、人には心というものがある。感情を思いやってみたまえ*24。仮に、仮にだ、逆の立場として、そうだな、アーハス市 (Aarhus) が、タイタン自治大学とその学生一万人が敵の手に落ちようとしているなら、君、天王星あたりに撤退するかね。見捨てられるか。

アリストー 大使。およそ軍人たる者、撤退を喜んで受け入れるわけがありません。ですが公務員の使命は納税者に仕えること。まずは同胞たるタイタン市民の生存権を優先しなければならぬのです。地球人への救援は副次目標にすぎません。

ハウエル大使 それなら、なぜ君は地球に行くのかね。そこに住む人たちは君の給料に一クロネ*25たりと寄与しておるまい。戦うのが面白いのかね。

アリストー まさか、大使。当艦は多元共同体 (Plurality) *26から選出された政府の命に従い、国連軍に配属されました。その国連軍からの任務でありますから。(とわざとらしく快活かつ大仰に)

ハウエル大使 任務であれば、死を厭わぬのかね。ははあ、エゴ (人格) データ・バックアップ

*22 清水多吉訳『戦争論 (上)』「第一部第一章」 p.63. <http://www.amazon.co.jp/dp/4122039398>

*23 清水訳『戦争論 (上)』「第一部第一章」 p.59. <http://www.amazon.co.jp/dp/4122039398>

*24 「戦争とは具体的局面に応じてその性質を変えるカメレオンのようなものであるばかりでなく……一種奇妙な三位一体をなしている」。この「憎悪・敵愾心といった本来的激烈性」「蓋然性・偶然性といった賭の要素」「政治的道具としての第二次的性質」からなる「三位一体」論については、清水訳『戦争論 (上)』 p.67 および "The Trinity: Violence, Chance, Political Purpose" in Beatrice Heuser, *Reading Clausewitz* (Pimlico Random House, 2002) pp.52-56.

*25 Eclipse Phase の公式設定では、タイタン連邦の通貨単位はクロネ (Krone/Kroner)。Refer to *Eclipse Phase Rulebook* 3rd Edition, p.79.

*26 *Eclipse Phase Rulebook*, p.79 にある "Plurality" とは政治学、社会学の専門用語でもあり、邦訳すれば「多元性」「複数性」。政治思想である「多元主義」(Pluralism) に基づくこの用語を、本作品では「多元共同体」と訳す。



ハウエル大使 ほう、何だね。(と向き直る)

アリスター 実は祖国を出て以来、当艦の戦闘機隊の損害は定数の五〇%に達しており、しかもパイロットや機材の補充がままなりません。当艦は実質的に「戦艦」(Battleship) ですが、機動戦において戦闘機の援護なき戦艦の出撃は論外です。

ハウエル大使 それで？

アリスター 信頼できる航空隊を一二時間以内に編入したいのです。最低一個中隊。

ハウエル大使 難しい注文だな。目星はあるのかね、どこぞの PMSC (private military & security company) やらだの*27。

アリスター それはお任せします。できれば金でなく、信念で動く人間が欲しいのですが。

ハウエル大使 厳しい条件だのう。

アリスター できれば、ということ。

ハウエル大使 いいだろう。手配できるかどうか、心当たりを探ってみるよ。

アリスター ありがとうございます。(と一礼)

ハウエル大使 なに、無理を通すのも外交の一つだろう。面白い時代になったのう。

(大使、いよいよ立ち去ろうとするが振り返って)

ハウエル大使 それでアリスター君。やはりシベリアン・コントロールというのは辛いかね。

アリスター いいえ、大使。大使こそ激務の中で御自愛ください。

(大使、ニヤリと笑って退出。アリスター、ハウエルの姿を見送ると、クルリと振り返って歩み去る)

第一幕第三場

註

仮に先進国が自らが今出している軍事予算の一部を対外援助や開発に転用していたならば、大半の武力紛争や人道危機を予防することが可能となったはずだ。2003年、アメリカ合衆国の軍事費は4,170億ドル、イギリスは370億ドルにのぼった。上位十五か国の軍事費を合計すると7,230億ドル(当時の約70兆円: 訳注)という驚くべき金額になる。これに対して同じ期間に使われた対外援助額の合計は世界中すべての国を合わせて600億ドル(当時の約6兆円: 訳注)に過ぎない。

—Michael Byers, *War Law: Understanding International Law and Armed Conflict* (Grove Press, NY, 2005)
http://www.amazon.co.jp/dp/4003321456/ref=pd_sim_b_4

(艦長室の隣は艦橋につながっている。アリスター、そのまま艦橋に入り、場面は艦橋に移る、艦橋一同は全員とも宇宙服を着ており、無言で彼女に一礼して勤務に戻る。アリスター、中央の座席につく。一人が宇宙服を抱えて彼女に近寄る)

*27 いわゆる傭兵部隊の現代版。詳細は P=W=シンガー、山崎淳訳『戦争請負会社』日本放送出版協会、2004年。



アリスター 副長。状況報告。

イム 核融合炉および物質＝反物質ドライブ、準備よし*28。緊急加速用金属水素タンク、充填済み。各砲塔群、待機中。全セクションのサーバー、アルサンの診断をパス。進路クリアー。大使のシャトルが引き上げ次第、いつでも飛べます。

アリスター よし。総員戦闘配置。宇宙服を着用。パイロット。シャトルが出たら行くぞ。

パイロット 了解。

アリスター それとな、副長。燃料とミサイルだが、地球に着いて時間できたら、闇でもどこでも目ぼしいバイヤーに片っ端から発注しろ。もう正規の補給はあてにするな。

イム はあ、ですが代金はどういたしますか？ 兵器の市場価格は高騰中でありませう。

アリスター 火星でゲットした例の純金インゴッドを出血大サービスといこう。この際だ。演習弾でも妥協する。一六〇発は欲しい。主計班と相談してくれ。

イム 了解であります。それで新任の大使はどうでありましたか。

アリスター 興味深いね、興味深いご仁だよ。(ニヤリと笑って)

イム 講和論を最期まで絶叫していた不幸な前任者よりは、でありますか？

アリスター ましだね、はるかに。連合船団の成功率を訊ねなかっただけでも、中々のタヌキだ。教養のひけらかし、厭味のきき方はほどほど。わたしと首相との言い争いのこと、知った上でのおとぼけぶりだ。インスタント外交官のわりには及第点。ところで戦闘機の件、掛け合ってくれるとき。(と部下に渡された宇宙服を着ながら)

イム 魔女の火鉢にホンの冷水一滴でありますな。

アリスター 知っているか。フリードリッヒ大王か誰かの言葉で、全てを守る者は……。

イム ……全てを失う。了解であります。

アリスター それにバラバラだった輸送の統合には最低二つメリットがある。(と指を立て)

イム 非効率的な船団の小出しを止めれば護衛の戦力を結集できます。

アリスター 一つはな。だがもう一つ。攻撃力の強化だ。(と二本目の指を立てる)

イム 護衛戦力は守りに徹するのがセオリーでは？

アリスター 原則はな。だが敵が来るといふなら、叩かないわけにいくまい。そしてティターンズは間違いなく低速で非武装の輸送船を狙ってくる。だから孫子曰く、「戦いの日、戦いの地を知れば、千里にして会戦すべし」さ。

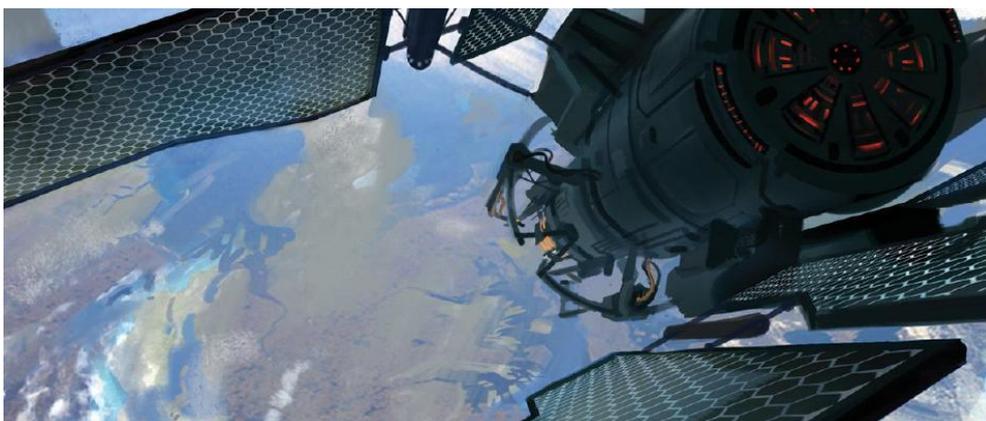
イム 輸送船は囷になるわけでありませうか。

アリスター そうしたくはない。ただな、手持ちの戦力を考えるとなあ。拠点を守りきるには手駒が足らんし、地球＝月のラグランジュ点を奪われればなしでは、まず地球周辺の基地が、お次は月が陥ちてしまう。ドミノ理論だな、これじゃ。

*28 21世紀現在、イオン (Ion) エンジン、熱核 (Nuclear Thermal) エンジン等の星間航行手段が開発中である。例えば2004年にNASAが行ったイオンエンジン実験では約90,000m/秒の速度(およそ30万km/時)に相当する結果が得られたとされる。一連の航宙用エンジンについては、NASA - Ion Propulsion: (<http://www.nasa.gov/centers/glenn/about/fs21grc.html>) and Ryan Hamerly, *The Nuclear Thermal Rocket*, Dated on February 14, 2011, Submitted as coursework for Physics 241, Stanford University, Winter 2011 (<http://large.stanford.edu/courses/2011/ph241/hamerly1/>)



《 防御衛星 》



(Quoted from *Eclipse Phase Rulebook 3rd Edition* (Posthuman Studios LLC., 2011), p.355) <http://eclipsephase.com/releases>

- イム 地球の防御衛星と月にある長射程砲台からの援護にまだ期待できましょう。
- アリスター そうだな。地球の防衛基地の圏外から月の砲台の援護を受けるまで、ティターンズが攻撃してくるのはその間隙だろう。と、本官たちがそう考えていることを連中は心得ているはず。そこに細工の仕方がある。違うか。(と宇宙服を着終わる)
- イム なにか御考えが御有りなのでありますな。
- アリスター 大丈夫さ。例えば状況を「スターリンググラードの戦い」になぞらえてみろ。
- イム スターリン……グラード？ ロシアのヴォルゴグラード市でありますか？
- アリスター そう。ティターンズがソ連軍で、人類側がドイツ軍、国連首脳はヒトラー。
- イム ははあ、ではさしずめ地球は包囲された例の「第六軍」でありますか。なるほど。すると当艦の役回りは？
- アリスター よくぞ聞いてくれた。この三文ドラマにおける戦闘空母サンダーボルトの役回りはだ、いいか、孤立して飢餓に苦しむ自称「要塞地帯」の救出に馳せ参じた、なんとナチスの精鋭軍団なのです！（と鼻で笑って拍手する）
- イム タイタンのにわか「赤軍」(Red Forces)にとんだ大役でありますな。(と苦笑)
- アリスター ま、という風に、世の中を動かす見えざる手のせいで、わたしたちの道はねじ曲がってしまうのさ。歴史ってどこかで繰り返すなあ、ン？(と肩をすくめ)
- イム でしたら補助兵力としての戦闘機がますます必要かと。当艦はタイタン海軍唯一の主力艦であります*29。何としても祖国に持ちかえらなれば。
- アリスター まあまあ、いざ、サイコロを投げてみようじゃないか、副長。
- センサー班 シャトル、安全距離に離脱。
- アリスター よし。パイロット。最大経済速度で発進。忘れるな、L 5 経路で遠回りだぞ。
- パイロット 了解。

*29 この物語以前のタイタン海軍はまだ数十の巡視艦 (a few dozen of custom cutters) を中核とするにすぎず、本星を守る軍力はわずかだった。大量建艦と防衛力強化は以後の時代に相当する。”History”, *Rimward*, p.93.



アリストアー やれやれ、片道燃料^{かたみちねんりょう}でゆるゆる戦場^{せんじょう}に向かうとは。結構^{けつこう}な救出^{きゅうしゅつ}作戦^{さくせん}だ。
イム 天^{あま}にまします父^{ちち}よ、救^{すく}い主^{ぬし}イエスよ、我^{われ}らに御加護^{ごかご}あれ。(と両手^{りょうて}を合わせて)
アリストアー では失樂園^{しつらくえん}に戻るか。行くぞ。(と深呼吸^{しんそく}して顔^{かほ}を引き締^{しめ}める)

第一幕第四場

註

「降伏^{こうふく}は論外^{ろんがい}である。部隊^{ぶたい}は最後まで戦^{たたか}うべし。できうれば、なお戦闘^{せんとう}可能な部隊^{ぶたい}で要塞^{ようさい}を縮小^{しゆくせう}し守^{まも}れ。勇敢^{ゆうかん}なる行為^{こうゐ}と要塞^{ようさい}の堅持^{げんじ}によって新たな前線^{ぜんせん}を確立^{かくりつ}し反撃^{はんげき}を開始^{かんし}する機会^{きかい}が生まれた。かくして第六軍^{だいろくぐん}はドイツ史^{とつし}における最も偉大^{ゐとまく}なる一幕^{いちまく}に歴史的^{れきしき}貢献^{こうけん}をなしたのである」

— ドイツ帝国^{せうとう}総統^{そうとう}アドルフ・ヒトラー (全滅寸前^{ぜんめつすんぜん}のスターリングラード^{スターリングラード}のドイツ第六軍^{ドイツ第六軍}に宛^{あて}て)

「……いくつもの砲弾^{ほうだん}の痕^{あと}が一つに連^つなっている。そこは何^{なに}だったのか？ まったくわからない。工場^{こうじょう}の構内^{こうない}にも、作業場^{さくごう}にも塹壕^{せんごう}があって、その底^{そこ}には凍^こりついた灰緑服^{はいりくふく}のドイツ兵^{とつへい}と灰色服^{こがいふく}のロシア兵^{ろしあへい}、人間の身体^{じんごう}の断片^{だんぺん}がまだ横^{よこ}たわっていた。敵味方^{てつかふと}の鉄兜^{てつたぶと}が煉瓦^{れんが}の破片^{はくぺん}にまじって投^なげ出^だされ、鉄兜^{てつたぶと}には雪^{ゆき}が詰^めまっている。有刺鉄線^{ゆうしてつせん}があったかと思うと半分^{はんぶん}露出^{ろしゅつ}した地雷^{じらい}、空^{から}の薬莢^{やくきよう}、壁^{かべ}の残骸^{ざんがい}、ねじ曲^まがって錆^{さび}びた鋼鉄^{こうてつ}の大梁^{おほはり}……」

— イギリス^{とくはいん}の特派員^{とくはいん}アレクサンダー・ワース (スターリングラード^{スターリングラード}の戦^{たたか}い直後^{ちくご}を視察^{しさつ}して)

[参照: アントニー・ビーヴァー、堀^{ほり}たほ子^こ訳『スターリングラード 運命^{うんめい}の攻圍^{こうゐ}戦 1942-1943』朝日新聞社、2005年]

(広々とした薄暗^{うすくろ}い会議室^{かいぎしつ}。その真ん中^{まんなか}には非常に大きな丸テーブル、高級酒^{こうきゅうしゆ}や料理^{りょうり}が食^たい散^ちらかしてある。テーブルの傍^{わらわ}には豪勢^{ごうせい}な椅子^{いす}が五つ、それぞれに上物^{じやうぶつ}の背広^{せいきやう}を着^きた男^{おとこ}が座^まる。ある者は肥満^{ひまん}し、ある者は瘦^{うす}せているが、一様に顔^{かほ}は薄暗^{うすくろ}さのせい^{せい}でよく見^みえない。男^{おとこ}達は笑^{わら}いながら話^わしている。どこからともなく葉巻^{えまき}の香^{かほ}りが)

議 長 さてハイパーコープ連合^{れんごう}の皆様^{みなさま}。上半期^{かみはんき}の収支^{しゅうし}について話し合^わいましょう。

DA社 ウチの兵器産業^{へいきざんぎょう}は好調^{こうてう}ダ。創業^{そうぎやう}早々^{そうそう}、地球^{ちきう}や火星^{くわせい}をめぐって旨^{うま}い小競^{こせ}り合^あいが展開^{てんか}されたおかげデ、だいぶ儲^{もう}けタ。これ^{これ}で株主^{かぶぬし}に面^{めん}目^{ぼく}が立^たつワ。

CO社 それをいうなら、戦災^{せんさい}のおかげで、我が社^{わがしゃ}のクローン生産部門^{くろんせいさんぶもん}の躍進^{やくしん}ぶりも負^まけておりませんとも。死人^{しにん}が増^まえれば我が社^{わがしゃ}の株価^{かぶか}が上^あがる。いまや量産^{りやうさん}モーフ(身体^{しんたい})は飛^とぶように売^うれますな。パートナ^{ぱーたな}ー企業^{くわいせつ}が潤^{うるお}っています。この調子^{てうし}でど^どん^どん死^しんでほ^ほしいのですが。

EX社 何^{なに}を仰^{おつしや}るやら。メディア^{メディア}とセックス^{セックス}を制^{せい}する者^{もの}、これぞ世界^{せかい}を制^{せい}す、ですよ。うちのコンテ^{こうせん}ンツ制作部門^{せいさくぶもん}は好戦^{こうせん}ムードに乗^のってドル箱^{ドルば}です。しかも生活費^{せいかうひ}欲^ほしさ^さに難民^{なんみん}の女^めどもが股^{また}を開^ひく。非常^{ひじょう}時^じには愛^{あい}国^{こく}美^び談^{だん}とポル^ぽル^るノに限^{かぎ}りますな。これ^{これ}で視聴^{しちやうりつ}率^{りつ}アッ^あプ間違^{まご}いなし。変態^{へんたい}大衆^{たいしゆ}サマサマです。



《 ティターズ特需 》



(This image is quoted from "Enter The Singularity...", *Eclipse Phase Rulebook* 3rd Edition (Posthuman Studios LLC., 2011), p.17) <http://eclipsephase.com/releases>

- F J社 みなさんは色々言われるが、産業の基盤はエネルギーだ。いち早く発電所、それに火星の鉱山を押さえた弊社、これぞ鉄板だ。しかも弊社は被災者だからな。優遇措置を受けられる。傘下グループが喜んでおるよ。
- SO社 おやおや、聞けば聞くほど羨ましい。逆に保険金融サービスは大出血です。
- F J社 ふむ、それは気の毒な。ただ御社の株価はじわじわ上がっておるようだが。
- SO社 ええ、まあ。いい機会なので、競合の他社さんには消えてもらいました。当社の独占体制が確立されつつあります。社員一同のボーナスは安泰というわけで、まさしく不況は大手の味方です。
- DA社 ティターズなんぞが謀反を起こした時にはさすがに驚いたガ……。
- CO社 ライバルはドシドシ淘汰されるし……。
- EX社 行政官僚どもをいくらでもコキ使えるし……。
- F J社 エネルギー価格はいいようにコントロールできるし……。
- SO社 災い転じて何とやら、ですな。戦争バンザイ、バンバンザイです。
- 全 員 総力戦は万々歳だ*30。ティターズ特需、ありがたや、ありがたや。(と笑い)
- 議 長 まあまあ、皆さん。業績アップのご報告はそのくらいで。どうでしょう、そろそろ我々コープは本腰を入れて参戦しますか、それとも時期尚早ですか。
- DA社 ある程度は戦後復興を視野に入れてよい時期ダガ。
- CO社 市場が被害を蒙りすぎるのはさすがにまずいでしょう。
- EX社 派手なニュース的イベントがあると助かります。
- F J社 戦争でも平和でもエネルギー需要は期待できるな。
- SO社 金融市場さえ安泰でしたら、とくに異存ありません。

*30 総力戦体制が初期段階において一時的な好景気をもたらす事例は、井上寿一『日中戦争下の日本』講談社、2007年。



議 長 なるほど。では対ティターズ戦略ですが、どなたが先陣を？

DA社 オイオイ。うちの兵器産業を過大評価されてハ、タマらんワ。

CO社 我が社の強みはむしろ後方支援です。

EX社 こちらはマスコミですよ。観戦役に徹するのが務めです。

FJ社 弊社はエネルギー企業だ。リスクな業務は兵隊どもにさせてくれ。

SO社 そもそも当社は戦いを生業としていません。あくまで銀行ですのね。

FJ社 そもそも論を言えば、国連軍がさっさと攻撃せんから、企業が迷惑するのだ。

DA社 ソリャ無茶だロ。ティターズも国連軍も正面きってのぶつかり合いが続いてすり減ッテル。ココヶ月は互いに再編成の小休止なのサ。

EX社 それは困りますねえ。ビッグニュースがないと視聴者の不興を買います。

CO社 第一、前線が停滞しては、我が社だけではなく、兵站業務を担う皆さんだって在庫を抱えてお困りのはず。停戦にでもなったら、次年度の売り上げはまずいですよ。これは営業にハッパかけないと。

SO社 では戦いを再開してもらい必要があります。株主総会が始まる前に。

FJ社 そんなことは分かっている。問題は「どうやって」という点だ。

議 長 ふうむ、どうも意見がまとまりませんな。

(みな、しばらく沈黙、落ち着かずにワザとらしく咳をする者、身じろぎをする者あり)

議 長 では、こういうのはどうでしょう。我々の忠犬ケントを動かして、船団護衛に集まっている国連軍を先陣に立たせましょう。ティターズと国連軍が共倒れになった後、営業マンを繰り出して積極販売に打って出るというのでは。

全 員 おお、それはすばらしく合理的なビジネスチャンスだ。

議 長 では賛成の方は挙手を。(全員、挙手)なるほど、ではそういうことで。

FJ社 ところで今更ではあるが、ケントの馬鹿ぶり、もう少しどうにかならんか。ハッター演説で無党派層を取り込むのはかまわんとして、先週も国連の会議場で水星 (Mercury) とメキシコ (Mexico) とを取り違えたそうではないか。あれで本当にハーバード大卒か？

EX社 おや、ご存知なかった？ ハーバード大時代のヤツの有名な逸話を。

FJ社 何の話だ。

EX社 卒論の口頭試問ですがね。あの馬鹿、ゴーストライターに書かせた論文、タイトルさえ失念したそうで。それで結局、面接官に向かって「ボクのパパを誰だと思ってる。ボク様を卒業させないと、パパに言いつけてクビだ」と豪語したとか。

SO社 それぞれ、その話なら彼の義弟からも聞きました。何でも在学中のキャンダル諸々が教授陣を通じて上下両院まで漏れて、彼の父親はずいぶん痛手を受けたとか。当社らからの献金がなければ、現政権での国防長官就任はまず無理だっ



たでしょう。跡取りがアレなので、議員生活四〇年のベテランも形無しな感があります。

CO社 大統領まで出した家系なのに、墮ちるところまで墮ちたようで。

DA社 ナニ、それが衆愚のレベルに見合った世襲政治屋の限界なのサ。批評ばかりで堪え性のない凡夫ナンゾニ、マともな指導者選ぶ能力なんか、そもそもあるわけない。ソの方が都合いいだろウ。バカな奴隷のトップも奴隷なのサ。

FJ社 うむ、確かにな。知力も忍耐力なく、しかも先見の明なき低脳だからこそ、なだめすかして、今日の今日まで利用できたわけだ。我々「足長オジサン」の思うがままにな。

EX社 そして用済みの暁には谷底へ突き落とす？ 悪い後見人ですねえ。

FJ社 いいや、むしろ慈愛に満ちた安楽死を提供してやるのだ。ケントばかりでない。見栄えばかりの傀儡ども (puppets) には、戦後にやって来るハイパー資本主義社会を生き抜けんたろう。ビジネスの世界は実力勝負だからな。

全員 違いない。苦勞知らずの世襲政治屋なんぞ全く……。 (と笑う)

議長 さて皆さん。ご歓談中にまことに恐縮ですが、そろそろ下半期の件を……。

註

グローバル化と関連した社会変化について最も多く言及されるのは、経済的不平等の増加と社会的両極化です。この現象は、最近まで比較的低い水準の経済的不平等を維持してきた東アジア諸国にも現在重大な問題として台頭しており、日本もその例外ではありません……。

一般に社会的両極化は中産層の没落として理解されています。しかし、わたしが強調したいのは現在韓国で、そして最終的には他のアジア諸国で進行している社会的両極化現象は、全体中産層の没落ではなく、一部中産層の下層移動とそれと相まった富裕中産層の登場、彼らの他の中産層集団からの分離です。ある面で、韓国の中産層はこの階層の上層部と下層部を失くしてしまう過程にあります。……結論として、韓国が過去十数年間、積極的に推進している世界化は韓国の経済的社会的な不平等を一層深化させ、次第にグローバル体制 (global system) に成功裏に作用し、参与する層と出来ない層の二分化へと進展する傾向を示しています。このような傾向は、どの国よりも積極的に世界化を推進している韓国で最もよく現れています。おそらく他の国でもある程度似通った現象が発見できるだろうと信じます。

—具海根 (ク・ヘグン/ハワイ大学社会科学教授) (翻訳: 鄭育子) 「韓国の世界化と社会変化: 中産層変化を中心に」 (2010年6月25日付東京大学コリア・コロキウムにて) <http://wwwsoc.nii.ac.jp/chosenshi/>